

2025年度

歯科衛生士科

シラバス



帯広コア専門学校

2025年度

1年生用シラバス

帯広コア専門学校

| | | | | | |
|--------|----------|------|------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 生物学 | | 担当講師 | 鶴谷 満 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる高校教員歴のある講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 生物学 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 生命現象を細胞の構造と機能、生命の連続性及び進化の観点から考察し、生命科学の基本的な概念や原理・法則を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|----------|--|
| 1 | 鶴谷 満 | 生命とは何か | 地球上の生命が誕生する過程と生物の持つ特徴について説明できる。 |
| 2 | 鶴谷 満 | 生命の進化 | 地球上の生命が誕生する過程を説明できる。 生命が進化した道筋を説明できる。 |
| 3 | 鶴谷 満 | 組織と細胞 | 細胞の構造と機能について説明できる。 |
| 4 | 鶴谷 満 | 生殖 | 生殖の仕組みについて説明できる。 |
| 5 | 鶴谷 満 | 遺伝・遺伝子 | 遺伝の法則について説明できる。 遺伝子と染色体の関係について説明できる。 |
| 6 | 鶴谷 満 | 刺激の受容と反応 | 外部刺激の受容の仕組みを説明できる。 神経系で興奮の起る仕組みを説明できる。 |
| 7 | 鶴谷 満 | 生体防御 | 多細胞動物が内部環境を維持するためにどのような仕組みで調整を行っているかを説明できる。 |
| 8 | 鶴谷 満 | 内分泌系の働き | 内分泌系の特徴とその働きについて説明できる。 ヒトのアレルギーと免疫の応用について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 化学 | | 担当講師 | 鶴谷 満 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる高校教員歴のある講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 化学 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 化学の基礎知識を修得し、身のまわりや人体内部で起こっている化学現象を科学的に理解できるとともに、薬品の濃度や取扱い方・操作等の基礎を身につける。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|---------------|--|
| 1 | 鶴谷 満 | 物質とは何か | 物質の分類、物質の構造、物質量について説明できる。 |
| 2 | 鶴谷 満 | 元素と化学結合 | 元素の周期表と化合物の反応について説明できる。 |
| 3 | 鶴谷 満 | 無機化合物 | 歯科領域に関連する無機化合物について説明できる。 |
| 4 | 鶴谷 満 | 有機化合物 | 歯科領域に関連する有機化合物と高分子化合物について説明できる。 |
| 5 | 鶴谷 満 | 物質の状態 | 温度や圧力などの条件によってほかの状態に変化する(三態変化)の規則性について説明できる。 |
| 6 | 鶴谷 満 | 無機反応の酸化還元 | 酸化還元反応を理解し、生体における酸化還元反応について説明できる。 |
| 7 | 鶴谷 満 | ヒトは何からできているか① | 生体を構成する物質の構造や性質を説明できる。 |
| 8 | 鶴谷 満 | ヒトは何からできているか② | 生命活動を支えるエネルギーと密接な関係にある酵素について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|------------------------------------|-------|---------|
| 科目名 | 心理学 | | 担当講師 | 渡邊 芳之 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる大学講師歴のある教員が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 「心理学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 心理学の基礎的な知見について習得する。 ヒトの心の働きと行動との関係について、科学的に理解することができる。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他 () | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(レポート) | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|------------|--|
| 1 | 渡邊 芳之 | 見る聞く感じる心 | 知覚はどのように成立しているかを知る。 知覚に影響を与えている要因を理解する。 |
| 2 | 渡邊 芳之 | 学ぶ覚える ところ | 学習の成立 記憶の構造プロセスを理解する。 |
| 3 | 渡邊 芳之 | やる気の心理 | 動機づけの機能 分類 そのメカニズムを知る |
| 4 | 渡邊 芳之 | 喜怒哀楽のころ | 感情の種類、メカニズムを知る。 フラストレーション、フラストレーション耐性とは何か理解する。 |
| 5 | 渡邊 芳之 | その人らしさの心理 | パーソナリティの特徴をどのように記述し、説明するかを知る。 パーソナリティの障害とはどのようなものかを学ぶ。 |
| 6 | 渡邊 芳之 | かしこさの心理 | 知能とは何か、その構造はどのようになっているかを知る。 知能の障害の仕組みを知る。 |
| 7 | 渡邊 芳之 | 考えるころ | 考えるとはどういうことなのかを理解する。 新しいものを創り出す過程と方法を学ぶ。 |
| 8 | 渡邊 芳之 | 発達するころ① | 発達に影響をおよぼす要因は何かを知る。 生涯にわたる発達の段階の課題は何かを学ぶ。 |
| 9 | 渡邊 芳之 | 発達するころ② | 乳幼児から青年期にかけてかけての発達の姿はどのようなものか理解する。 |
| 10 | 渡邊 芳之 | 発達するころ③ | 成人期から高齢期にかけてかけての発達の姿はどのようなものか理解する。 |
| 11 | 渡邊 芳之 | 人と関わる心理 | 人は他者の特徴をどのようにとらえ、印象を形成するかを知る。 人を好きになる要因は何かを学ぶ。 |
| 12 | 渡邊 芳之 | 人と集うころ | 集団の特徴にはどのようなものがあるかを知る。 集団が人の行動に及ぼす影響はどのようなものかを学ぶ。 |
| 13 | 渡邊 芳之 | 健康なころ | ところが健康な状態、および健康が損なわれた状態とは何かを学ぶ。 心理的問題に対する専門的援助の方法とはどのようなものかを理解する。 |
| 14 | 渡邊 芳之 | カウンセリングのころ | 歯科医療におけるホスピタリティに富んだコミュニケーション および患者への支援の意義を理解する。 |
| 15 | 渡邊 芳之 | 思いを伝え合うころ | 歯科医療におけるコミュニケーションの意義を理解する。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 生化学 | | 担当講師 | 高松 友香 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で栄養士業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 人体の構造と機能2 「生化学・口腔生化学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 食物として摂取した栄養素を、どのように消化吸収し、エネルギーを獲得し、必要な物質を合成するかを化学反応から理解するために必要な基礎知識を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他 (レポート提出) | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他 () | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|--------------------------------|--|
| 1 | 高松 友香 | I 編 人体の代謝と機能 人体の構成要素 | 生体の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する。 |
| 2 | 高松 友香 | I 編 人体の代謝と機能 人体における化学反応 | 消化管で起こる栄養素の消化と吸収、酸素の運搬・二酸化炭素の排出、細胞内で起こる代謝について理解する。 |
| 3 | 高松 友香 | I 編 人体の代謝と機能 糖質・脂質・タンパク質の代謝 | エネルギー代謝の全体像を理解する。糖質・脂質の代謝と、タンパク質の消化、アミノ酸の代謝分解過程を理解する。 |
| 4 | 高松 友香 | I 編 人体の代謝と機能 遺伝子とタンパク質合成 | DNAの基本構造、転写について理解する。 体内の恒常性を維持する必要性と働きを理解する。 |
| 5 | 高松 友香 | II 編 口腔の代謝と機能 歯と歯周組織の生化学 | 歯と歯周組織、結合組織を構成する細胞を理解する。 歯の無機成分・有機成分、ヒドロキシアパタイトを理解する。 |
| 6 | 高松 友香 | II 編 口腔の代謝と機能 硬組織の生化学 | 血清中のカルシウムとリン酸濃度を理解する。 石灰化の仕組みとカルシウム代謝を理解する。 |
| 7 | 高松 友香 | II 編 口腔の代謝と機能 唾液の生化学 | 唾液中の無機質・有機質の種類や作用を理解する。 う蝕・歯周疾患におけるプラークのかかわりを理解する。 |
| 8 | 高松 友香 | II 編 口腔の代謝と機能 プラークの生化学 | 唾液中の無機質・有機質の種類や作用を理解する。 う蝕・歯周疾患におけるプラークのかかわりを理解する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 医療倫理 | | 担当講師 | 増地 裕幸 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|------------------------------------|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 医療倫理の習得と、生命倫理の学習 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|-----------------|------------------------|
| 1 | 増地 裕幸 | 授業の概要 | 伝統的な医の倫理と新しい医の倫理を理解 |
| 2 | 増地 裕幸 | 医療倫理 | 医療従事者としての基本的意識と |
| 3 | 増地 裕幸 | 医療倫理の規範 | 医療従事者としての倫理規範を学習 |
| 4 | 増地 裕幸 | 生命倫理(1) | 生命の尊厳を理解 |
| 5 | 増地 裕幸 | 生命倫理(2) | 生命の終わりに関する問題を理解 |
| 6 | 増地 裕幸 | 生命倫理(3) | 生命倫理から医療倫理について議論できる |
| 7 | 増地 裕幸 | インフォームドコンセント(1) | インフォームドコンセントの基本的考え方を理解 |
| 8 | 増地 裕幸 | インフォームドコンセント(2) | インフォームドコンセントを説明できる |

| | | | | | |
|--------|---------------|------|------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション I | | 担当講師 | 浦島 久 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる英語講師歴のある講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 英語は会話力 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科医療現場での歯科医師と患者の対話モデルを聞いて内容を理解することができる。実際の現場で英語によるコミュニケーションが図れるような英語力を身につける。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|-------------|-----------------------------|
| 1 | 浦島 久 | 自己紹介と発音の基本 | 自己紹介と基本の発音について学習する。 |
| 2 | 浦島 久 | 自己紹介、動詞と過去形 | 自己紹介、動詞と過去形について学習する。 |
| 3 | 浦島 久 | 実用英会話 | 電話で話す英語について学習する。 |
| 4 | 浦島 久 | 実用英会話 | 買い物をする時の英語について学習する。 |
| 5 | 浦島 久 | 現在、過去、未来 | 現在、過去、未来について学習する。 |
| 6 | 浦島 久 | 現在完了形 | 現在完了形(～した事がありますか?)について学習する。 |
| 7 | 浦島 久 | 時間・場所 | 時間と場所について学習する。 |
| 8 | 浦島 久 | 実用英会話 | 日本人が良く間違える英語について学習する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 情報リテラシ I | | 担当講師 | 村川 貴康 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | コンピューター専門学校に勤務していた講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 実教出版 30時間でマスターOffice2021 | | | | |
| 参考書 | プリント配布 | | | | |
| 一般目標 | Windowsの基本操作およびWordの操作方法を基礎から学び、ビジネス文書が作成できるようにする。併せて、PowerPointの基本操作を学ぶ。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|------------|---|
| 1 | 村川 貴康 | Windows | Windowsの基本操作ができる。 |
| 2 | 村川 貴康 | インターネット | Webブラウザを利用して安全にWebページを閲覧できる。 検索エンジンを利用して知りたい情報を見つけることができる。 |
| 3 | 村川 貴康 | Windows | アプリケーションソフトの基本操作ができる。 |
| 4 | 村川 貴康 | Windows | タスクバーを利用し、設定を変更できる。 |
| 5 | 村川 貴康 | Word | 文章の基本入力ができる。 |
| 6 | 村川 貴康 | Word | ファイルの保存と読み込み及び印刷設定ができる。 |
| 7 | 村川 貴康 | Word | 文字の書式設定(右寄せ、左寄せ、サイズ変更など)ができる。 |
| 8 | 村川 貴康 | Word | 文字の修飾(下線、網掛け)ができる。 |
| 9 | 村川 貴康 | Word | 表を活用した文書の作成ができる。 |
| 10 | 村川 貴康 | Word | 画像を活用した文書の作成ができる。 |
| 11 | 村川 貴康 | PowerPoint | PowerPointの基本操作(新スライド作成、文字入力など)ができる。 |
| 12 | 村川 貴康 | PowerPoint | 画像の利用と文字修飾ができる。 |
| 13 | 村川 貴康 | PowerPoint | アニメーションを効果的に利用できる。 |
| 14 | 村川 貴康 | PowerPoint | グラフ、オートシェイプ、クリップアートなどを活用できる。 |
| 15 | 村川 貴康 | PowerPoint | スライドショー実行とプレゼンテーションにふさわしい資料作成ができる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------------------|---------|
| 科目名 | 歯科衛生士概論 | | 担当講師 | 中原奈緒美、藤村 孝江、清野 智美 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で、歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生士総論」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科衛生を実践して人々の健康づくりを支援する者となる為に、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度及び倫理的思考法の基礎を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|--------|--------------|--|
| 1 | 藤村 孝江 | 歯科衛生学とは | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学について説明できる。 ・歯科衛生と健康について説明できる。 ・歯科衛生活動の様々な対象について説明できる。 |
| 2 | 藤村 孝江 | 歯科衛生活動の領域 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生業務の実践について説明できる。 ・チーム歯科医療における歯科衛生活動について述べる。 |
| 3 | 藤村 孝江 | 歯科衛生の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生と歯科予防処置について説明できる。 ・歯科衛生士の誕生について説明できる。 ・歯科衛生業務の発展について説明できる。 ・歯科衛生士の要請教育について説明できる。 ・米国におけるDental hygienistの誕生について述べる。 |
| 4 | 藤村 孝江 | 歯科衛生の背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣としての口腔清掃について説明できる。 ・清掃用具としての歯ブラシについて説明できる。 ・歯科衛生の発展について説明できる。 ・歯科衛生士業務の現状について説明できる。 ・歯科衛生士の役割と展望について説明できる。 |
| 5 | 藤村 孝江 | 歯科衛生活動のための理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・予防の概念を説明できる。 ・健康と生活を分析するモデル(WHOによる健康の定義、ICF)について説明できる。 ・EBM、批判的思考について説明する。 |
| 6 | 藤村 孝江 | 保健行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健活動とは何か説明できる。 ・保健行動の理論について説明できる。 ・ヒューマンニーズ理論について説明できる。 |
| 7 | 中原 奈緒美 | 歯科衛生過程 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生過程とは何か説明できる。 ・歯科衛生過程活用の利点について説明できる。 ・業務記録(POS、SOAP)について説明できる。 |
| 8 | 中原 奈緒美 | 歯科衛生過程の流れ | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生アセスメントについて説明できる。 ・歯科衛生診断について説明できる。 ・歯科衛生計画立案について説明できる。 ・歯科衛生介入について説明できる。 ・歯科衛生評価について説明できる。 |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|--------------|--|
| 9 | 藤村 孝江 | 歯科衛生士の業務の発展② | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士法について説明できる。 ・歯科衛生業務の法的性格について説明できる。 ・歯科衛生士の義務について説明できる。 ・歯科衛生士の役割について説明できる。 ・関連法規について説明できる。 |
| 10 | 藤村 孝江 | 歯科衛生業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・予防技術、保健行動を促進する技術、歯科治療に伴う臨床技術、支援するための基本能力、他職種と協働できる協調性、信頼性の高い臨床能力、歯科衛生を科学する態度について説明できる。 ・安全管理について説明できる。 |
| 11 | 藤村 孝江 | 歯科衛生士と医療倫理 | <ul style="list-style-type: none"> ・倫理の必要性について説明できる。 ・医の倫理と患者の権利について説明できる。 ・歯科衛生と倫理について説明できる。 |
| 12 | 藤村 孝江 | 対象の自己決定権の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己決定権の支援について説明できる。 ・インフォームド・コンセントについて説明できる。 ・インフォームド・チョイスについて説明できる。 ・セカンドオピニオンについて説明できる。 |
| 13 | 清野 智美 | 歯科衛生活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士の動向について説明できる。 ・保健・医療・福祉に関わる歯科衛生士について説明できる。 ・歯科衛生活動の場について説明できる。 |
| 14 | 清野 智美 | 歯科衛生士と組織 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門職と組織について説明できる。 ・日本歯科衛生士会について説明できる。 ・全国歯科衛生士教育協議会について説明できる。 ・日本歯科衛生学会について説明できる。 ・国際歯科衛生士連盟について説明できる。 |
| 15 | 藤村 孝江 | 海外における歯科衛生士 | <ul style="list-style-type: none"> ・海外の歯科衛生士の歩みについて説明できる。 ・海外における歯科衛生士の現状について説明できる。 ・社会におけるニーズと今後について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 解剖学 | | 担当講師 | 行木 隼人 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 人体の構造と機能1 「解剖学・組織発生学・生理学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 人体の構造を知り、その仕組みを知る | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習(スケッチ) ・ 実習 ・ 小テスト | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(出席) | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|---------|--|
| 1 | 行木 隼人 | 骨格系1 | 骨の機能と構造について説明できる 骨の結合について例をあげて説明できる |
| 2 | 行木 隼人 | 骨格系2 | 体幹骨の形態について説明できる |
| 3 | 行木 隼人 | 骨格系3 | 上肢骨の種類と形態について説明できる 下肢骨の種類と形態について説明できる |
| 4 | 行木 隼人 | 筋系1 | 生体を構成する主な筋をあげることができる |
| 5 | 行木 隼人 | 筋系2 | 頭頸部の筋について説明できる |
| 6 | 行木 隼人 | 消化器の構造1 | 消化器官の基本的構造について説明できる |
| 7 | 行木 隼人 | 消化器の構造2 | 食物が消化・吸収される経路を理解できる 舌と唾液腺の構造を概説できる |
| 8 | 行木 隼人 | 循環系1 | 心臓の基本的構造と収縮の仕組みを説明できる |
| 9 | 行木 隼人 | 循環系2 | リンパ系の構造と機能を説明できる |
| 10 | 行木 隼人 | 神経系1 | 神経系を分類し、各神経系の解剖学的特徴を説明できる |
| 11 | 行木 隼人 | 神経系2 | 脳神経の構造と各神経の特徴を説明できる |
| 12 | 行木 隼人 | 呼吸器系 | 呼吸器の構造と機能を関連づけることができる |
| 13 | 行木 隼人 | 感覚器 | 感覚受容器の構造について理解できる |
| 14 | 行木 隼人 | 内分泌 | 内分泌器官の構造について理解できる |
| 15 | 行木 隼人 | 生殖器 | 男性生殖器・女性生殖器の構造を概説できる |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|------------|---------|
| 科目名 | 組織・発生学 | | 担当講師 | 栗原 延好、林 泰広 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 『人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』 『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 人体の細胞、組織の構造とその発生の基礎を学び習得する 顎口腔系の組織の発生の基礎を学び習得する | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|--------------------------|--|
| 1 | 栗原 延好 | 本科の目的について 細胞の構造と機能 | 細胞の基本構造を説明できる 細胞の構成体の機能を説明できる |
| 2 | 栗原 延好 | 細胞の一生 細胞の基本生理機能 | 細胞の増殖と寿命について説明できる 細胞の基本生理機能を説明できる |
| 3 | 栗原 延好 | 組織 | 組織を4つに分類し、特徴を説明できる |
| 4 | 栗原 延好 | 発生 染色体 精子、卵子の発生、受精と着床 | 染色体とDNAの関係、発生時の減数分裂を説明できる 精子卵子の発生と受精、着床の仕組みを説明できる |
| 5 | 栗原 延好 | 胚葉の形成 胎児の成長と発育 | 三胚葉から発生する主要な組織を説明できる 鰓弓についてと胎盤の機能について説明できる |
| 6 | 栗原 延好 | 顔面と口腔の発生:鰓弓 顔面と口唇の形成 | 顔面の発生と鰓弓について説明できる 顔面、口唇の発生について説明できる |
| 7 | 栗原 延好 | 口蓋と鼻腔の形成 舌、腺の形成 | 口蓋の形成と鼻腔の分離について説明できる 舌の形成、腺の形成について説明できる |
| 8 | 栗原 延好 | 歯の発生 | 歯の発生の概要を説明できる |
| 9 | 林 康広 | 歯の萌出 歯の脱落と交換 | 歯の萌出過程とその機序を説明できる 歯の交換を説明できる |
| 10 | 林 康広 | エナメル質 | エナメル質の概要と性状を説明できる エナメル質に存在する構造物を説明できる |
| 11 | 林 康広 | 象牙質 | 象牙質の概要と性状を説明できる 象牙質の構造を説明できる |
| 12 | 林 康広 | 歯髄 | 歯髄の概要と構造を説明できる 歯髄の変化を説明できる |
| 13 | 林 康広 | セメント質 | セメント質の概要と性状を説明できる |
| 14 | 林 康広 | 歯根膜 歯槽骨 | 歯根膜の概要と機能を説明できる 歯槽骨の概要と機能を説明できる |
| 15 | 林 康広 | 歯肉 口腔粘膜 | 歯肉の概要と性状を説明できる 口腔粘膜の概要と性状を説明できる |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 生理学 | | 担当講師 | 栗原 延好 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 病院で臨床検査技師業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 人体の生命現象、各器官の機能及び病態の発現機序など、人体の基本的な構造や機能を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|----------------|--|
| 1 | 栗原 延好 | 生理学で学ぶこと 細胞 | 生理学とは何か。生理学のあゆみ。生理学はなぜ必要か。 構造、基本的機能について。 |
| 2 | 栗原 延好 | 循環 | 循環機能の意義を理解し、循環器系の構造と機能、血液の成分とその機能について説明できる |
| 3 | 栗原 延好 | 筋と運動 呼吸 | 骨格筋の収縮のしくみと運動反射の特徴について説明できる 呼吸の意義を理解し、呼吸器系の構造と機能について説明できる |
| 4 | 栗原 延好 | 神経系 感覚 | 情報伝達としての神経の役割を理解する 特殊感覚・体性・内臓感覚などについて学ぶ |
| 5 | 栗原 延好 | 消化と吸収 | 食物の消化と吸収の意義を理解し、消化器系の構成・構造と機能について説明できる |
| 6 | 栗原 延好 | 排泄 体温 | 尿の生成と排尿の意義について理解し、腎臓の基本構造と機能について説明できる。体熱の生産と放散、体熱、体温の調節と変動 |
| 7 | 栗原 延好 | 内分泌 | 情報伝達としての内分泌の役割を理解する |
| 8 | 栗原 延好 | 生殖 | 機能・性周期・受精と妊娠・分娩などについて理解する |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-----------|---------|
| 科目名 | 口腔解剖学 | | 担当講師 | 林 理、杉村 好久 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 | | | | |
| 参考書 | 口腔顎顔面解剖ノート | | | | |
| 一般目標 | 口腔および顎顔面の基本的な機能や構造を理解する | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(小テスト) | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|---------------------------|------------------------------|
| 1 | 林 理 | 口腔解剖 概論 | 口腔の機能について理解する |
| 2 | 林 理 | 口腔付近の解剖学 固有口腔、口腔前庭について | 口腔の範囲と各部位の名称を説明できる |
| 3 | 林 理 | 骨学 1 頭蓋骨について | 各部の名称を説明できる |
| 4 | 林 理 | 骨学 2 上顎骨について | 上顎骨の構造を説明できる 副鼻腔について説明できる |
| 5 | 林 理 | 骨学 3 下顎骨について | 下顎骨の構造を説明できる |
| 6 | 林 理 | 骨学 4 顎関節、舌骨について | 顎関節の構造を説明できる |
| 7 | 林 理 | 唾液腺について | 唾液腺の機能や構造、役割を理解する |
| 8 | 林 理 | 舌について | 舌の機能や構造を理解する |
| 9 | 杉村 好久 | 筋学 1 表情筋について | 表情筋、舌骨下筋について説明できる |
| 10 | 杉村 好久 | 筋学 2 咀嚼筋について | 咀嚼筋、舌骨上筋について説明できる |
| 11 | 杉村 好久 | 脈管学1 動脈について | 頭頸部の動脈の特徴と名称を説明できる |
| 12 | 杉村 好久 | 脈管学2 静脈、リンパ系について | 頭頸部の静脈、リンパ系の特徴と名称を説明できる |
| 13 | 杉村 好久 | 神経学 1 三叉神経、顔面神経 | 三叉神経、顔面神経を説明できる |
| 14 | 杉村 好久 | 神経学 2 舌咽、舌下神経 | 舌咽、舌下神経について説明できる |
| 15 | 杉村 好久 | 神経学 3 迷走神経 | 迷走神経について説明できる |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 歯牙解剖学 | | 担当講師 | 前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 1単位 | 1単位 | 履修時期 | 第一学年 前期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | ヒトの歯の名称や特徴、基本的な事柄を学ぶと共に、歯列・咬合関係について理解する |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|----------|---|
| 1 | 前田 恭子 | 歯の概論 | 歯の機能、組織、歯式、用語について説明できる。 |
| 2 | 前田 恭子 | 歯の形態 | 歯冠・歯根の形態について説明できる。 歯の左右の鑑別ができる(ミュールライターの三兆候) |
| 3 | 前田 恭子 | 永久歯(その1) | 上下顎中切歯・側切歯・犬歯について説明できる。 |
| 4 | 前田 恭子 | 永久歯(その2) | 上下顎第一・第二小臼歯について説明できる。 |
| 5 | 前田 恭子 | 永久歯(その3) | 上下顎第一大臼歯について説明できる。 |
| 6 | 前田 恭子 | 永久歯(その4) | 上下顎第二・第三大臼歯について説明できる。 |
| 7 | 前田 恭子 | 乳歯 | 乳歯の特徴について説明できる。 |
| 8 | 前田 恭子 | 歯列と咬合 | 歯の並び方や咬合関係について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|---|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 口腔生理学 | | 担当講師 | 秋津 光希 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能・口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 顎口腔系の機能、特に歯、咀嚼、嚥下、唾液、感覚、発声のメカニズムを理解しその機能を健全に維持するための、また、これらの諸機関の機能障害を予防し治癒させるための基礎を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに(筆記試験) ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|--------------------|--|
| 1 | 秋津 光希 | 本科の目的 歯と歯周組織の生理 | 歯と歯周組織の名称を説明できる |
| 2 | 秋津 光希 | 歯と口腔の感覚 | 口腔内の感覚のメカニズム、特異性について説明できる |
| 3 | 秋津 光希 | 味覚と嗅覚 | 味覚と嗅覚のメカニズム、摂食行動との関連について説明できる |
| 4 | 秋津 光希 | 咬合と咀嚼 | 咬合のメカニズムについて説明できる、特に下顎運動 |
| 5 | 秋津 光希 | 咀嚼、吸啜 | 顎反射、咀嚼能力について説明できる 吸啜のメカニズムについて説明できる |
| 6 | 秋津 光希 | 嚥下、嘔吐 | 嚥下、嘔吐のメカニズムを理解し説明できる |
| 7 | 秋津 光希 | 発声 | 発声・発語のメカニズムについて説明できる |
| 8 | 秋津 光希 | 唾液 | 唾液分泌のメカニズムとその役割について説明できる |

| | | | | | |
|--------|------------|------|--|-------------|---------|
| 科目名 | 微生物・口腔微生物学 | | 担当講師 | 今井 邦俊、土田 知直 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる大学講師歴のある教員と歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 疾病の成り立ち及び回復過程の促進の中に含まれる微生物学を、微生物の分類、性状、人体との総合的な関連性(感染、免疫機構、化学療法、消毒と滅菌)、また口腔との関連性を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|------------------|---|
| 1 | 今井 邦俊 | 疾病と微生物、免疫学 | 疾病と科学的認識、疾病の原因、化学療法と免疫学の進歩、口腔微生物学について説明できる |
| 2 | 今井 邦俊 | 感染と感染症 | 感染と感染症、種類、宿主-寄生体相互作用について説明できる |
| 3 | 今井 邦俊 | 微生物の病原性1 | 微生物の分類と性状の違い、各微生物の性状と病原性について説明できる |
| 4 | 今井 邦俊 | 微生物の病原性2 | ウイルスの性状、歯科関連ウイルス感染症、その他の微生物の性状と病原性について説明できる |
| 5 | 今井 邦俊 | 宿主防御機構と免疫機構 | 非特異的防御機構と特異的防御機構、粘膜免疫の特徴について説明できる |
| 6 | 今井 邦俊 | 液性免疫、細胞性免疫、アレルギー | 液性免疫、細胞性免疫、アレルギーについて説明できる |
| 7 | 土田 知直 | 口腔細菌叢 | 口腔内細菌叢の成り立ちと遷移、部位別の特徴について説明できる |
| 8 | 土田 知直 | バイオフィルムとしてのプラーク | バイオフィルムとしてのプラークの定義と成り立ち、歯石の形成について説明できる |
| 9 | 土田 知直 | 口腔感染症1 | う蝕、歯内感染症の発生機序、病態と細菌との関連性について説明できる |
| 10 | 土田 知直 | 口腔感染症2 | 歯周病、その他の口腔感染症の発生機序、病態と細菌との関連性について説明できる |
| 11 | 土田 知直 | 化学療法 | 化学療法の定義、種類、特徴、について説明できる |
| 12 | 土田 知直 | 院内感染対策 | 留意すべき口腔外感染症、歯科臨床における院内感染対策、標準予防策について説明できる |
| 13 | 土田 知直 | 滅菌と消毒 | 滅菌と消毒の定義、特徴、消毒薬の使用法について説明できる |
| 14 | 土田 知直 | 細菌培養 | 細菌・真菌の培養法について説明できる |
| 15 | 土田 知直 | 微生物の観察方法 | 微生物の観察方法について説明できる |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 情報リテラシⅡ | | 担当講師 | 村川 貴康 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | コンピューター専門学校に勤務していた講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 実教出版 30時間でマスターOffice2021 | | | | |
| 参考書 | プリント配布 | | | | |
| 一般目標 | Excelの基本的・応用的な機能を学ぶ。Word、Excel、PowerPointのアプリケーションソフトを統合的に利用できるようになる。 ビジネスにふさわしいメールが作成できるようになる。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|---------|---------------------------------------|
| 1 | 村川 貴康 | Excel | 基本的なワークシートの編集ができる。 |
| 2 | 村川 貴康 | Excel | ページ設定を行い印刷ができる。 |
| 3 | 村川 貴康 | Excel | オートフィルを利用し、効率的に入力できる。 |
| 4 | 村川 貴康 | Excel | 関数(SUM、AVERAGE)が利用できる。 |
| 5 | 村川 貴康 | Excel | 関数(MAX、MIN、COUNT、COUNTAなど)が利用できる。 |
| 6 | 村川 貴康 | Excel | 表を作成できる。 |
| 7 | 村川 貴康 | Excel | グラフを作成できる。 |
| 8 | 村川 貴康 | Excel | ピクチャーグラフを作成できる。 |
| 9 | 村川 貴康 | Excel | IF関数を用いた条件判定が利用できる。 |
| 10 | 村川 貴康 | Excel | セルの相対参照と絶対参照が利用できる。 |
| 11 | 村川 貴康 | Excel | オートフィルタが利用できる。 |
| 12 | 村川 貴康 | Excel | WordとExcelを相互に活用できる。 |
| 13 | 村川 貴康 | ビジネスメール | メールソフトの基本操作ができる。 |
| 14 | 村川 貴康 | ビジネスメール | 連絡先の追加や登録ができる。 メールの作成や送受信などの操作ができる |
| 15 | 村川 貴康 | ビジネスメール | ビジネスにふさわしいメールを作成することができる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--------------|---------|
| 科目名 | 薬理学 | | 担当講師 | 山本 啓人、大和田 三朗 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 薬局で薬剤師業務を実践している教員と歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「薬理学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 薬物と生体とのかかわりあいや薬物の性質を理解し、歯科治療内容とそれに関する薬物との関係を習得する | | | | |
| 学習方法 | 講義 | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|-------------|---------------------------------------|
| 1 | 山本 啓人 | 総論 | 薬物の作用機序、効果を説明できる。 |
| 2 | 山本 啓人 | 中枢神経系と薬 | 中枢神経とそれに作用する薬物について説明できる。 |
| 3 | 山本 啓人 | 末梢神経系と薬 | 末梢神経系に作用する薬と局所麻酔薬について説明できる。 |
| 4 | 山本 啓人 | 循環・呼吸系と薬 | 循環系・呼吸系に作用する薬物について説明できる。 |
| 5 | 山本 啓人 | 血液と薬 | 血液凝固の機序と血液関連薬物について説明できる。 |
| 6 | 山本 啓人 | 炎症と薬 | 炎症の経過と炎症に作用する薬物について説明できる。 |
| 7 | 山本 啓人 | ビタミン・ホルモンと薬 | ビタミン・ホルモンと代謝性疾患治療薬について説明できる。 |
| 8 | 大和田 三朗 | 感染症と薬 | 感染症と抗感染症薬・消毒薬について説明できる。 |
| 9 | 大和田 三朗 | 悪性腫瘍と薬 | 悪性腫瘍と抗悪性腫瘍薬について説明できる。 |
| 10 | 大和田 三朗 | 免疫と薬 | 免疫と免疫に作用する薬物について説明できる。 |
| 11 | 大和田 三朗 | 漢方医学と薬 | 漢方医学と漢方薬について説明できる。 |
| 12 | 大和田 三朗 | 歯・歯髄疾患と薬 | 齲蝕の予防と歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物について説明できる。 |
| 13 | 大和田 三朗 | 歯周疾患と薬 | 歯周治療と口臭治療に用いる薬物について説明できる。 |
| 14 | 大和田 三朗 | 顎・口腔粘膜疾患と薬 | 口腔粘膜疾患・顎関節症・口腔乾燥症・神経疾患に用いる薬物について説明できる |
| 15 | 大和田 三朗 | 服薬指導 | 一般のおよび対象者別の服薬指導について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 病理学・口腔病理学 | | 担当講師 | 栗原 延好、竹田 智郎 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 『病理学・口腔病理学』 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 人体に生ずる種々疾患の病態を把握することで、その疾患の原因や発生秩序を病理学的に理解し、臨床的な診断力を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|------------|--------------------------------|
| 1 | 栗原 延好 | 病因論 | 病気の内因、外因を理解し、説明できる。 |
| 2 | 栗原 延好 | 遺伝性疾患と代謝障害 | 遺伝性疾患や奇形、変性・萎縮や壊死に関して理解し説明できる。 |
| 3 | 栗原 延好 | 増殖と修復 | 肥大や増生、創傷治癒における肉芽組織の意味を理解する。 |
| 4 | 栗原 延好 | 循環障害 | 体循環の意味を理解し、各種循環障害に関して説明できる。 |
| 5 | 栗原 延好 | 炎症と免疫 | 炎症と免疫の意味を理解し、その種類について説明できる。 |
| 6 | 栗原 延好 | 腫瘍 | 腫瘍の病態を理解し、その種類について説明できる。 |
| 7 | 竹田 智郎 | 歯の発育異常 | 歯の発育異常や奇形について理解し説明できる。 |
| 8 | 竹田 智郎 | 歯の硬組織の疾患 | う蝕、咬耗症、摩耗症、着色について理解し説明できる。 |
| 9 | 竹田 智郎 | 歯髓の病変 | 歯髓における炎症の形態を理解し、説明できる。 |
| 10 | 竹田 智郎 | 歯周組織の病変Ⅰ | 歯周組織の形態や発生の特徴を理解し、説明できる。 |
| 11 | 竹田 智郎 | 歯周組織の病変Ⅱ | 歯周病の形態や原因を理解し、種類について説明できる。 |
| 12 | 竹田 智郎 | 口腔粘膜の病変 | 粘膜疾患の原因を理解し、その病態種類について説明できる。 |
| 13 | 竹田 智郎 | 口腔領域の嚢胞 | 口腔内の嚢胞性疾患の病態を理解し、種類について説明できる。 |
| 14 | 竹田 智郎 | 唾液腺の疾患 | 唾液腺疾患の病態を理解し、その種類について説明できる。 |
| 15 | 竹田 智郎 | 口腔領域の腫瘍 | 口腔領域の腫瘍の特徴を理解し、その種類について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--------|---------|
| 科目名 | 衛生学・公衆衛生 | | 担当講師 | 行木 亜希子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 学建書院 医療スタッフのための衛生学エッセンス | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 地域住民の健康寿命延伸への関心 地域や家庭環境と健康維持の関係への理解度の向上 感染症予防への意識向上 | | | | |
| 学習方法 | 講義 | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|----------------------------|---------------------------------|
| 1 | 行木 亜希子 | 衛生学・公衆衛生学の総論 ヘルスプロモーション | 健康の保持・増進への取り組み 国民健康づくりへの理解 |
| 2 | 行木 亜希子 | 超高齢社会 平均寿命と健康寿命 | 超高齢化社会への対応 健康寿命延伸への取り組み |
| 3 | 行木 亜希子 | 環境と健康 廃棄物処理 | 環境の健康への影響の理解 廃棄物処理方法の習得 |
| 4 | 行木 亜希子 | 疫学の概要 スクリーニング検査 | 疫病の発生要因の理解 スクリーニングの必要性への理解 |
| 5 | 行木 亜希子 | 感染症 院内感染予防対策 | 感染症の種類把握 スタンダードプリコーションの必要性理解 |
| 6 | 行木 亜希子 | 国民栄養の現状 食品衛生 | 食生活と健康の関連性の理解 食品の安全性への理解 |
| 7 | 行木 亜希子 | 生活習慣 生活習慣病の予防 | 生活習慣病の把握 生活習慣病予防のための関連行動の把握 |
| 8 | 行木 亜希子 | 地域保健の概念 地域保健活動 | 地域特性の認識 地域保健活動内容の把握 |
| 9 | 行木 亜希子 | 地域包括ケア 多職種連携 | 地域包括ケアの参画 医療介護行政との連携 |
| 10 | 行木 亜希子 | 母子保健 小児保健 | 妊産婦の保健管理方法の習得 小児の保健管理方法の習得 |
| 11 | 行木 亜希子 | 学校保健の概要 学校保健活動 | 学校保健安全法の理解 学校保健委員会の役割の理解 |
| 12 | 行木 亜希子 | フッ化物洗口 僻地学校保健 | フッ化物洗口の効果の理解 僻地の特性への理解 |
| 13 | 行木 亜希子 | 成人・高齢者保健 医科歯科連携 | 高齢者の特性の把握 成人病の医科歯科連携の把握 |
| 14 | 行木 亜希子 | 産業保健 健康診断 | 産業保健管理方法の習得 特定健診の内容の把握 |
| 15 | 行木 亜希子 | 精神保健 認知症 | うつ病等の病態理解 認知症の理解と対応方法の習得 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|------------|---------|
| 科目名 | 歯型彫刻 | | 担当講師 | 坂野 研、千葉 真一 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員と、歯科技工所で歯科技工士業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 20時間(10回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 各歯牙のデザイン、歯型彫刻により歯牙の持つ解剖学的形態とその各部の名称及び特徴を確認し、臨床科目に応用する為の知識と技術を習得する。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|-----------------|---------------------------|
| 1 | 坂野 研 | 歯牙解剖総論 | 歯牙の種類、歯の基本形態、各部の名称を学習する |
| 2 | 坂野 研 | 上顎前歯 歯牙デッサン | 歯牙形態の観察、立体を二次元的に表現できる |
| 3 | 千葉 真一 | 上顎前歯 歯牙デッサン | 基本的な歯牙の形態・特徴をとらえ、それを表現できる |
| 4 | 千葉 真一 | 上顎前歯 歯型彫刻 | 歯牙を立体的に表現するための各ストラップを実習する |
| 5 | 千葉 真一 | 上顎前歯 歯型彫刻 | 歯牙の解剖学的形態・特徴を確認し立体的に表現できる |
| 6 | 坂野 研 | 上顎前歯 歯型彫刻 | 歯牙の基本的形態・各部の名称を再確認し表現できる |
| 7 | 坂野 研 | 下顎大臼歯 歯牙デッサン | 歯牙形態の観察、立体を二次元的に表現できる |
| 8 | 千葉 真一 | 下顎大臼歯 歯牙デッサン | 基本的な歯牙の形態・特徴をとらえ、それを表現できる |
| 9 | 千葉 真一 | 下顎大臼歯 歯型彫刻 | 歯牙の解剖学的形態・特徴を確認し立体的に表現できる |
| 10 | 坂野 研 | 下顎大臼歯 歯型彫刻 | 歯牙の基本的形態・各部の名称を再確認し表現できる |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--------------|---------|
| 科目名 | 口腔衛生学 | | 担当講師 | 海野 久美子、前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務、歯科衛生士業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯・口の正常な状態と機能を十分理解し、口腔の健康を保持増進させることによって、全身の健康を保持増進し、もって健康で文化的な社会生活を営むための、知識をもつ。また健康増進の具体的な手段、方法を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|----------------|---------------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防 | 口腔の健康の定義、正常を説明できる。 |
| 2 | 前田 恭子 | 歯・口の健康 | 歯、口の構造、機能、歯の付着物、沈着物について説明できる。 |
| 3 | 前田 恭子 | 口腔清掃 | 口腔清掃の意義・方法・用具について説明できる。 |
| 4 | 前田 恭子 | 口腔清掃 | 歯磨剤やブラッシングの術式、その指導について説明できる。 |
| 5 | 前田 恭子 | 歯科疾患の疫学 | う蝕、歯周疾患の疫学的特性を概説する。 |
| 6 | 海野 久美子 | ライフステージの口腔保健管理 | 母子と幼児の口腔保健管理について説明する。 |
| 7 | 海野 久美子 | ライフステージの口腔保健管理 | 学童、思春期の口腔保健管理について説明する。 |
| 8 | 前田 恭子 | ライフステージの口腔保健管理 | 成人、老人の口腔保健管理について説明する。 |
| 9 | 海野 久美子 | う蝕の予防 | う蝕について及びその発病のしくみについて説明できる。 |
| 10 | 海野 久美子 | う蝕の予防 | う蝕の発生要因や活動性について説明できる。 |
| 11 | 海野 久美子 | う蝕の予防 | う蝕の予防法について説明できる。 |
| 12 | 前田 恭子 | う蝕の予防 | フッ化物について説明できる。 |
| 13 | 前田 恭子 | う蝕の予防 | ライフステージに応じたフッ化物応用について説明できる。 |
| 14 | 海野 久美子 | 歯周疾患の予防 | 歯周疾患の症状と分類、発病機構とその予防について説明できる。 |
| 15 | 海野 久美子 | その他の疾患、異常の予防 | 顎関節症・口臭・舌痛症・口腔癌、智歯周囲炎について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--------------|---------|
| 科目名 | 歯科臨床概論 | | 担当講師 | 大滝 達哉, 竹下 智之 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生士のための「歯科臨床概論」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科医療が変化していく時代の中で、歯科衛生士との重要性を理解認識して医療の向上に寄与することを目的とするが、プロフェッションとしての歯科専門用語および弱者である患者に対しての礼節等を学習することを目的とする | | | | |
| 学習方法 | 講義 | | | | |
| 学習評価 | 筆記試験・平常点・提出物 | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|-----------------------|---|
| 1 | 大滝 達哉 | 歯科診療とは 歯科診療所について | 歯科診療の特異性を理解し、歯科診療所とそこで働くスタッフの業務を説明できる。 |
| 2 | 大滝 達哉 | 歯科診療における安全管理と歯科業務 | 歯科診療所の安全管理と業務全般の流れを説明できる |
| 3 | 大滝 達哉 | 歯科診療の流れ 検査・診査・前処置1 | 診療前処置としてバイタルサインと画像検査について理解説明できる |
| 4 | 大滝 達哉 | 検査・診査・前処置2 歯周組織検査 | 診療前処置として歯周組織検査の重要性と処置における疼痛コントロールを理解説明できる |
| 5 | 大滝 達哉 | 小児歯科 | 小児の発達に合わせた歯科の特異性と先天異常を理解し、う蝕予防処置について説明できる |
| 6 | 大滝 達哉 | 不正咬合と矯正歯科 | 不正咬合の種類と矯正治療の概要を理解し説明できる |
| 7 | 竹下 智之 | 口腔外科 | 口腔外科の特異性と口腔外傷、抜歯、粘膜疾患について説明できる |
| 8 | 竹下 智之 | 歯科保存1 保存修復 | 保存処置の意味と保存修復の材質について説明できる |
| 9 | 竹下 智之 | 歯科保存2 歯内療法 | 歯髄に対する治療法の違いを説明できる |
| 10 | 竹下 智之 | 歯周治療1 歯周基本治療 | 歯周治療の意味と歯周基本治療を説明できる。また歯周病と全身疾患の関連を理解する |
| 11 | 竹下 智之 | 歯周治療2 歯周外科とメンテナンス | 歯周外科処置とメンテナンスについて理解し継続的管理の重要性を説明できる |
| 12 | 大滝 達哉 | 歯科補綴1 クラウンブリッジについて | 歯科補綴の意味とクラウンブリッジについて説明できる |
| 13 | 大滝 達哉 | 歯科補綴2 有床義歯について | 有床義歯の作成工程を理解し各工程における事前準備の内容を説明できる |
| 14 | 大滝 達哉 | 障がい者・高齢者歯科 | 高齢者社会における歯科診療の重要性と地域包括ケアにおける訪問診療の位置づけを説明できる |
| 15 | 大滝 達哉 | 歯科用語 | 歯科用語を理解し診療内容に応じた歯科衛生士の役割を再確認する |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|--------|---------|
| 科目名 | 保存修復学 | | 担当講師 | 中原 奈緒美 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 科医療分野における歯科保存修復学に特化し、様々な原因・病態・検査法・特殊器具および材料・治療法を学習し理解することにより臨床における歯科衛生士としての歯科知識を深ると共に保存修復治療における円滑な診療補助を目的とする。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|--------|----------------------------|--|
| 1 | 中原 奈緒美 | 保存療法とは？ 口腔検査について | 歯科保存学とは何か理解し説明できる。 基本的検査法について説明できる。 |
| 2 | 中原 奈緒美 | 保存修復学とは？ 窩洞について | 保存修復学とは何か理解し説明できる。 窩洞の種類・部位の名前・条件を説明できる。 |
| 3 | 中原 奈緒美 | 保存修復治療の概要・準備 窩洞形成・歯髄の保護 | 治療の概要や準備について理解し、説明できる。 窩洞形成・歯髄の保護について説明できる。 |
| 4 | 中原 奈緒美 | コンポジットレジン修復 | コンポジットレジン修復に必要な基礎的知識を得る。 |
| 5 | 中原 奈緒美 | セメント修復 インレー・アンレー修復 | セメント修復、インレー・アンレー修復に必要な基礎的知識を得る。 |
| 6 | 中原 奈緒美 | インレー・アンレー修復 ベニア修復 | インレー・アンレー修復、ベニア修復に必要な基礎的知識を得る。 |
| 7 | 中原 奈緒美 | 保存修復における歯科 衛生士の役割① | 修復治療のそれぞれの術式における介助の手法について理解し説明できる。 |
| 8 | 中原 奈緒美 | 保存修復における歯科 衛生士の役割② | 修復治療のそれぞれの術式における介助の手法について理解し説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|--|------|---|--------|---------|
| 科目名 | 歯内療法学 | | 担当講師 | 川上 まり子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 「保存修復・歯内療法」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科の治療において疼痛の緩和と歯牙の保存は最も患者にとって重要とされるところで、その為の処置を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|--------|----------------------|--|
| 1 | 川上 まり子 | 総論 | 歯内療法学とは何か説明できる |
| 2 | 川上 まり子 | 概論 | 歯の痛みをどうやって取るか説明できる |
| 3 | 川上 まり子 | 歯髄の保存療法 | 歯髄の保存療法を説明できる |
| 4 | 川上 まり子 | 歯髄の除去療法 | 歯髄の除去療法を説明できる |
| 5 | 川上 まり子 | 根管治療 | 根管の治療について理解し説明できる |
| 6 | 川上 まり子 | 根管充填 | 根管充填について理解し説明できる |
| 7 | 川上 まり子 | 外科的歯内療法 | 歯内療法における外科的処置について説明できる |
| 8 | 川上 まり子 | 外傷、安全対策 ホワイトニングほか | 歯内療法の外傷の対応、安全対策、ホワイトニングなど、全般に対する知識を説明できる |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 歯周治療学Ⅰ | | 担当講師 | 前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯を支えるために最も重要な歯周組織の構造や状態を理解し、歯周病の原因や全身との関係を学習することで、歯科衛生士としての歯周病との関わり合いを習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|-------------|--------------------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | 歯周治療と衛生士 | 歯周疾患における歯科衛生士の役割を理解し、関わり合いを説明できる。 |
| 2 | 前田 恭子 | 歯周組織の構造Ⅰ | 歯周組織(歯肉・歯根膜)の構造を、理解し、説明できる。 |
| 3 | 前田 恭子 | 歯周組織の構造Ⅱ | 歯周組織(セメント質・歯槽骨)の構造を、理解し、関わり合いを説明できる。 |
| 4 | 前田 恭子 | 歯周組織の機能 | 歯周組織の機能を、理解し関わり合いを説明できる。 |
| 5 | 前田 恭子 | 歯周疾患Ⅰ | 歯肉炎・歯周炎の成り立ちを理解し、関わり合いを説明できる。 |
| 6 | 前田 恭子 | 歯周疾患Ⅱ | 歯周炎・咬合性外傷の成り立ちを理解し、関わり合いを説明できる。 |
| 7 | 前田 恭子 | 歯周疾患の原因 | 歯周疾患の原因(プラーク・歯石など)を理解し、関わり合いを説明できる。 |
| 8 | 前田 恭子 | 歯周疾患と全身との関係 | 歯周疾患が全身に及ぼす影響を理解し、関わり合いを説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅰ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 90時間(45回) | 単位数 | 3単位 | 履修時期 | 第1学年 前期・後期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 |
| 一般目標 | 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|---------------|---|
| 1 | 藤村 孝江 | 歯科予防処置の概論 | ・歯科予防処置の概念と内容を説明できる ・歯科予防処置の法的位置付けについて説明できる ・予防処置の対象者を把握する方法について説明できる |
| 2 | 藤村 孝江 | 歯科衛生アセスメント | ・情報収集の目的や得られる情報、検査方法を説明できる ・基本的な器具の種類と特徴、使用目的を説明できる |
| 3 | 藤村 孝江 | ミラーテクニック | ・デンタルミラーの使用目的、把持方法を説明できる ・ミラーテクニックを実践する |
| 4 | 藤村 孝江 | エクスプローラーの操作 | ・エクスプローラーの種類、目的、特徴、操作方法について説明できる ・模型上でエクスプローラーの操作を実践する |
| 5 | 藤村 孝江 | フッ化物の基礎知識 | ・フッ化物のう蝕抑制機構のメカニズムが説明できる ・フッ化物の吸収・沈着・排泄について説明できる ・フッ化物中毒について説明できる |
| 6 | 藤村 孝江 | 口腔内の観察1 | エクスプローラーとデンタルミラーを用いて模型上で口腔内診査を実践する |
| 7 | 前田 恭子 | フッ化物応用1 | ・フッ化物の全身応用・局所応用について説明できる ・う蝕予防処置法について説明できる |
| 8 | 前田 恭子 | フッ化物洗口法1 | フッ化物洗口に使用するフッ化物の種類、 |
| 9 | 前田 恭子 | フッ化ジアンミン銀の適応症 | ・フッ化ジアンミン銀の性質、特徴、適応期、使用上の注意について説明できる。 |
| 10 | 中原 奈緒美 | 歯周組織の検査1 | ・プロービングから得られる情報、測定方法が説明できる ・プロービングの種類と特徴、基本操作方法を説明できる ・模型上でプロービング基本操作を実践する ・歯石の付着部位を理解する |
| 11 | 中原 奈緒美 | 歯周組織の検査2 | ・縁上歯石、縁下歯石の違いを説明できる ・分岐部病変の検査について説明できる ・歯の動揺度の検査、分類について説明できる ・模型上でファーケーションプローブの操作を実践する |
| 12 | 藤村 孝江 | スケーリングの手順1 | ・スケーリングとルートプレーニングについて説明できる ・スケーリング時の正しい姿勢を理解する ・患者頭部のポジション、術者のポジションを理解する |
| 13 | 藤村 孝江 | スケーリングの手順2 | ・スケーラーの種類・使用目的・特徴を説明できる ・手用スケーラーの形態と刃部断面図について説明できる ・シクルスケーラーの操作手順を説明できる |
| 14 | 藤村 孝江 | シクルスケーラーの操作1 | ファントム上で下顎3～3の操作を実施する |

| 科目名 | 歯科予防処置 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|----------|-----------------|---|-----------------|
| 15 | 藤村 孝江 | シックルスケーラーの操作2 | ファントム上で上顎3～3の操作を実施する | |
| 16 | 藤村 孝江 | シックルスケーラーの操作3 | ファントム上で左下4～7の操作を行う | |
| 17 | 藤村 孝江 | シックルスケーラーの操作4 | ファントム上で右下4～7の操作を行う | |
| 18 | 藤村 孝江 | シックルスケーラーの操作5 | ファントム上で左上4～7の操作を行う | |
| 19 | 藤村 孝江 | シックルスケーラーの操作6 | ファントム上で右上4～7の操作を行う | |
| 20 | 横山 亜未 | 歯面研磨1 | ・歯面研磨の目的、使用器材について説明できる ・歯面研磨剤の種類を説明できる | |
| 21 | 横山 亜未 | 歯面研磨2 | 模型上で歯面研磨を実施する | |
| 22 | 横山 亜未 | 歯面研磨3 | 相互で歯面研磨を実施する | |
| 23 | 横山 亜未 | 歯面研磨4 | 相互で歯面研磨を実施する | |
| 24 | 中原 奈緒美 | フッ化物歯面塗布1 | ・フッ化物歯面塗布法の種類と使用製剤、応用時期、保管法、応用後の注意について説明できる ・模型上で歯面塗布を実施する | |
| 25 | 中原 奈緒美 | フッ化物歯面塗布2 | 相互でフッ化物歯面塗布を実施する | |
| 26 | 中原 奈緒美 | フッ化物歯面塗布3 | トレー法、イオン導入法の術式を理解し、相互で実施する | |
| 27 | 中原 奈緒美 | フッ化物洗口法2 | フッ化物洗口の濃度計算ができる。洗口を実施する。 | |
| 28 | 藤村 孝江 | 小窩裂溝填塞法1 | 小窩裂溝填塞法の種類、適応期、術式について説明できる。 | |
| 29 | 藤村 孝江 | 小窩裂溝填塞法2 | 模型上で小窩裂溝填塞を実施する。 | |
| 30 | 藤村 孝江 | 歯周組織の検査1 | 相互でプロービングを行う | |
| 31 | 藤村 孝江 | 歯周組織の検査2 | 相互でプロービングを行う | |
| 32 | 藤村 孝江 | う蝕予防処置集団応用 | 集団に対し効果的なう蝕予防法について説明できる | |
| 33 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの基礎知識 | ・キュレットスケーラーの頸部の特徴と使用部位を説明できる ・キュレットスケーラーの形態と刃部断面図について説明できる | |
| 34 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作1 | ファントム上で下顎3～3の操作を実施する | |
| 35 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作2 | ファントム上で上顎3～3の操作を実施する | |
| 36 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作3 | ファントム上で左下4～7の操作を行う | |
| 37 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作4 | ファントム上で右下4～7の操作を行う | |
| 38 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作5 | ファントム上で左上4～7の操作を行う | |
| 39 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラーの操作6 | ファントム上で右上4～7の操作を行う | |
| 40 | 前田 恭子 | シャープニング1 | ・シャープニングの目的、砥石の種類、使用器材について説明できる ・シャープニングの方法、手順を説明できる | |

| 科目名 | 歯科予防処置 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|----------|-----------|-----------------------------|-----------------|
| 41 | 前田 恭子 | シャープニング2 | 各種スケーラーにおける適切なシャープニングを実践できる | |
| 42 | 中原 奈緒美 | 超音波スケーラー1 | 超音波スケーラーの特徴、適応、禁忌を理解し説明できる | |
| 43 | 中原 奈緒美 | 超音波スケーラー2 | 模型上で超音波スケーラーを実践する | |
| 44 | 前田 恭子 | う蝕活動性試験1 | う蝕活動性試験の種類、性質を説明できる | |
| 45 | 前田 恭子 | う蝕活動性試験2 | う蝕活動性試験を実施し、自身の口腔内環境を把握する | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科保健指導 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 90時間(45回) | 単位数 | 3単位 | 履修時期 | 第1学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 参考書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「口腔保健管理」 | | | | |
| 一般目標 | 歯科衛生士にとって、必要不可欠な保健指導の考え方や方法を理解する事により、専門的知識の充実を図る。人々の望ましい保健行動を支援する能力を身に付けるために、保健指導の概要を理解する。また、各ライフステージにおける保健指導の基礎知識を理解する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 筆記試験 並びに 実技試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|--------------------------|---|
| 1 | 前田 恭子 | 歯科保健指導総論 | ・歯科保健指導論の定義、考え方、法的位置づけを理解する ・健康の概念、予防の概念が説明できる |
| 2 | 前田 恭子 | 口腔の基礎知識1 | 口腔の構造、歯周組織について説明できる |
| 3 | 前田 恭子 | 口腔の基礎知識2 | 歯冠と歯根の形態、口腔の機能について説明できる |
| 4 | 前田 恭子 | う蝕と歯周病の基礎知識1 | 口腔内の付着物・沈着物、プラーク、歯石について説明できる |
| 5 | 前田 恭子 | う蝕と歯周病の基礎知識2 | う蝕の分類・原因について説明できる |
| 6 | 前田 恭子 | う蝕と歯周病の基礎知識3 | 歯周病の分類と進行プロセスについて説明できる |
| 7 | 中原 奈緒美 | 歯科保健指導実施のための基礎知識 | 行動変容の要素とそのステップについて説明できる |
| 8 | 中原 奈緒美 | 食生活指導の基礎1 | 食生活および食習慣の把握について説明できる |
| 9 | 中原 奈緒美 | 食生活指導の基礎2 | 食品とう蝕の誘発性について説明できる |
| 10 | 中原 奈緒美 | 食生活指導の基礎3 | 咀嚼と食品について説明できる |
| 11 | 前田 恭子 | ～口腔内の情報収集～ 口腔内の観察・検査1 | 歯、歯肉、舌、口腔粘膜について説明できる |
| 12 | 前田 恭子 | ～口腔内の情報収集～ 口腔内の観察・検査2 | 唾液、歯面の付着物について説明できる |
| 13 | 前田 恭子 | 歯科衛生過程の進め方1 | 歯科衛生アセスメント(情報収集、情報処理)について説明できる |
| 14 | 前田 恭子 | 歯科衛生過程の進め方2 | 歯科衛生診断(問題の明確化)と歯科衛生計画立案について説明できる |
| 15 | 前田 恭子 | 歯科衛生過程の進め方3 | 歯科衛生介入・評価について説明できる |
| 16 | 藤村 孝江 | 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理1 | 全身的な健康状態の把握について説明できる |
| 17 | 藤村 孝江 | 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理2 | 医療面接について説明できる |
| 18 | 前田 恭子 | ～口腔内の情報収集～ 口腔内の観察・検査3 | 歯周ポケット、動揺度について説明できる |
| 19 | 前田 恭子 | ～口腔内の情報収集～ 口腔内の観察・検査4 | 相互で口腔内の検査を行う |

| 科目名 | 歯科保健指導 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-------------|----------|--------------------------|--|-----------------|
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | |
| 20 | 前田 恭子 | ～口腔内の情報収集～ 口腔内の観察・検査5 | 口臭の原因と分類について説明できる | |
| 21 | 前田 恭子 | 口腔保健の意義 | 日常生活、食生活と口腔保健について説明できる | |
| 22 | 前田 恭子 | 対象把握と予防管理法 | う蝕予防の臨床と歯周疾患予防の臨床について説明できる | |
| 23 | 前田 恭子 | 病態阻止のための継続管理1 | 歯周疾患・補綴物装着後の継続管理について説明できる | |
| 24 | 前田 恭子 | 病態阻止のための継続管理2 | 歯科治療終了後・矯正歯科治療の継続管理について説明できる | |
| 25・26 27 | 前田 恭子 | 口腔保健管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージごとの口腔保健管理について説明できる ・特別な配慮の必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理について説明できる ・老人保健事業、介護保険と口腔保健管理について説明できる | |
| 28 | 前田 恭子 | 情報分析のためのデータ 指数1 | プラーク・歯石の指数について説明できる | |
| 29 | | | | |
| 30 | 前田 恭子 | 情報分析のためのデータ 指数2 | 歯周疾患の指数について説明できる | |
| 31 | | | | |
| 32 | 前田 恭子 | 情報分析のためのデータ 画像 | 口腔内写真とX線写真から読み取れることを述べる | |
| 33 | | | | |
| 34 | 中原 奈緒美 | 口腔観察と記録 | 問診と口腔内診査について説明できる | |
| 35 | 前田 恭子 | ホームケアと プロフェッショナルケア | 機械的・科学的プラークコントロールについて説明できる | |
| 36 | 前田 恭子 | 歯ブラシの知識 | 歯ブラシの種類と特徴、適応、注意点について説明できる | |
| 37 | 前田 恭子 | 補助的清掃器具 | 種類、適応、使用方法を理解し実践できる | |
| 38 | 前田 恭子 | 歯磨剤・洗口剤 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯磨剤・洗口剤の分類を述べる ・フッ化物配合歯磨剤の特徴、効果、使用量と使用法、使用回数について説明できる | |
| 39 | 前田 恭子 | 口腔清掃1 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続管理システムについて説明できる ・口腔清掃方法の選択について説明できる | |
| 40 | 前田 恭子 | 口腔清掃2 | ライフステージごとのブラッシング指導が説明できる | |
| 41 | 前田 恭子 | 口腔清掃3 | 特別な要因がある場合のブラッシング指導について説明できる | |
| 42 | 中原 奈緒美 | 口腔清掃4 | 相互実習でライフステージごとのブラッシング指導を実践する | |
| 43 | | | | |
| 44 | 前田 恭子 | 100%磨き | 歯ブラシと補助用具を駆使し、プラークを全て落とすよう歯面清掃を実施する | |
| 45 | | | | |

| | | | | | |
|--------|------------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅰ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 100時間(50回) | 単位数 | 3単位 | 履修時期 | 第1学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助」 | | | | |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯科材料の知識と取り扱い」「歯科器械の知識と取り扱い」 | | | | |
| 一般目標 | 歯科衛生士の業務について理解する。各種歯科材料の基本的性質について学び、適正な取り扱い方法を身に付ける。歯科診療の流れに沿った共同作業の基本を学び、滅菌・消毒について理解する。実習(口腔内模型作製)において、患者への接し方を学ぶ。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|-------------------|--|
| 1 | 中原 奈緒美 | 歯科診療補助の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療の補助と介助について述べる ・歯科衛生士法について述べる ・歯科衛生士の業務について説明できる |
| 2 | 中原 奈緒美 | 診療設備の基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科用ユニットについて理解する ・ユニットに付属している物について理解する ・コンプレッサー・オートクレーブ等その他の診療設備について理解する |
| 3 | 中原 奈緒美 | 感染予防対策と滅菌・消毒 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症発症の要因と感染経路 ・スタンダードプリコーションと具体的対策について述べる ・感染リスクとその対策について述べる |
| 4 | 中原 奈緒美 | 感染予防対策と滅菌・消毒 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・主な消毒薬の種類、用途、濃度、特徴について説明できる ・消毒薬の抗微生物スペクトルについて述べる ・使用器具類の洗浄・消毒・滅菌の流れについて述べる |
| 5 | 中原 奈緒美 | 感染予防対策と滅菌・消毒3 | <ul style="list-style-type: none"> ・主な滅菌器の種類、特徴について説明できる ・手指衛生について理解する ・手指消毒を実践できる |
| 6 | 藤村 孝江 | 医療安全管理1 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理・医療危機管理について述べる ・医療事故・医療過誤について説明できる ・ヒヤリハット事例とその対策について述べる |
| 7 | 藤村 孝江 | 医療安全管理2 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分類を説明できる ・医療廃棄物について説明できる |
| 8 | 中原 奈緒美 | 診療時の共同動作1 | <ul style="list-style-type: none"> ・共同動作の概念について説明できる ・ライティング・ポジショニングを理解し、実践できる |
| 9 | 中原 奈緒美 | 診療時の共同動作2 | <ul style="list-style-type: none"> ・器具、小器具を正しく取り扱うことができる ・ペングリップとパームグリップによる受け渡しができる ・受け渡し禁忌エリアについて説明できる |
| 10 | 中原 奈緒美 | 診療時の共同動作3 | <ul style="list-style-type: none"> ・バキュームの目的、種類、把持法を理解する ・バキューム操作の基本を理解し、注意事項を説明できる ・バキュームの挿入禁忌部位を説明できる |
| 11 | 中原 奈緒美 | 診療時の共同動作4 | <ul style="list-style-type: none"> ・フォーハンドの手順・原則を理解する ・スリーウェイシリンジの目的を理解し操作する |
| 12 | 中原 奈緒美 | 歯科材料の基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科材料の基本的性質について説明する ・歯科材料の素材を述べる |
| 13 | 中原 奈緒美 | 印象材の性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・印象材の種類・分類・用途・特徴、印象採得の種類・特徴を説明できる ・ゾルとゲル、寸法変化、弾性と変形について説明できる ・印象体の消毒、模型材への影響を述べる |

| 科目名 | 歯科診療補助 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|----------------|----------|----------------|---|-----------------|
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | |
| 14 | 中原 奈緒美 | 模型用材料1 | <ul style="list-style-type: none"> ・石膏の性質・種類・用途を説明できる ・硬化の促進・遅延方法と保管方法を説明できる ・石膏柱制作を実施する | |
| 15・16 17・18 | 中原 奈緒美 | 印象採得1 | アルジネート印象材の取り扱いを理解し、模型上で印象採得を実施する | |
| 19 | 中原 奈緒美 | 歯肉圧排、歯間分離、隔壁法1 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的、方法、使用する器具について説明できる ・模型上で実践する | |
| 20 21 | 中原 奈緒美 | 印象採得2 | 相互でアルジネート印象採得を実施する | |
| 22 | 中原 奈緒美 | 模型用材料2 | 印象採得を実施し石膏を注入する | |
| 23 | 中原 奈緒美 | 模型用材料3 | 模型のトリミングを行う | |
| 24 | 中原 奈緒美 | 歯肉圧排、歯間分離、隔壁法2 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的・方法・使用する器具について説明できる ・模型上で実践する | |
| 25 26 | 中原 奈緒美 | 印象採得3 | 寒天・アルジネート印象材の連合印象採得を実践する | |
| 27 28 | 中原 奈緒美 | 印象採得4 | ゴム質印象材による精密印象採得を実施する | |
| 29 | 中原 奈緒美 | 仮封材の取り扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・仮封の目的・方法・仮封材の所要性質を説明できる ・テンポラリーストップングの特徴を説明できる ・ストッパー、ストップングキャリアーを用いて模型上で充填を実施する ・セメント系仮封材の酸化亜鉛ユージノールセメント、カルボキシレートセメントの用途を理解し練和と充填を実施する | |
| 30 31 | 中原 奈緒美 | 常温重合レジンの取り扱い | 常温重合レジンの取り扱いを理解し、ストレートハンドピースの使い方を習得する | |
| 32 33 | 中原 奈緒美 | 暫間被覆冠の作製 | 既成暫間被覆冠を用いて模型上で作製を実施する | |
| 34 | 中原 奈緒美 | 合着・接着材の取り扱い1 | 合着材および接着材の種類と用途・所要性質を説明できる | |
| 35 | 中原 奈緒美 | 合着・接着材の取り扱い2 | <ul style="list-style-type: none"> ・カルボキシレートセメントの取り扱いを理解し練和を実施する ・グラスイオノマーセメントの取り扱いを理解し練和を実施する ・リン酸亜鉛セメントの取り扱いを理解して練和を実施する | |
| 36 | 中原 奈緒美 | ラバーダム防湿法1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の目的・利点と欠点・使用器具の名称と用途を説明できる ・ラバーダム防湿の手順・留意点について説明できる | |
| 37 | 中原 奈緒美 | ラバーダム防湿法2 | 模型上で1歯のラバーダム防湿を実施する | |
| 38 39 | 中原 奈緒美 | ラバーダム防湿法3 | 相互で1歯のラバーダム防湿を実施する | |

| 科目名 | 歯科診療補助 I | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|----------|-----------|---|-----------------|
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | |
| 40 | 前田 恭子 | 口腔ケア | 他職種とのチーム医療について説明できる | |
| 41 | 前田 恭子 | 全身疾患1 | 疾患ごとの歯科診療への対応について説明できる | |
| 42 | 前田 恭子 | 全身疾患2 | 疾患ごとの歯科診療への対応について説明できる | |
| 43 | 前田 恭子 | 全身疾患3 | 疾患ごとの歯科診療への対応について説明できる | |
| 44 | 前田 恭子 | 全身疾患4 | 疾患ごとの歯科診療への対応について説明できる | |
| 45 | 前田 恭子 | 障害者への歯科対応 | 歯科訪問診療の流れを説明できる 車椅子患者への対応を理解し、実際に誘導できる | |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | う蝕予防処置論 | | 担当講師 | 前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---------------------------------|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | う蝕の基本的知識、原因と進行および予防法を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|-----------|-------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | う蝕予防処置の概要 | う蝕予防処置とは何か説明できる。 |
| 2 | 前田 恭子 | う蝕の基礎知識 | う蝕とは何か説明できる。 |
| 3 | 前田 恭子 | う蝕の原因と進行 | う蝕の原因、進行の原因について説明できる。 |
| 4 | 前田 恭子 | う蝕活動性試験 | う蝕活動性試験の目的、種類について説明できる。 |
| 5 | 前田 恭子 | フッ化物の応用1 | フッ化物とは何か説明できる。 |
| 6 | 前田 恭子 | フッ化物の応用2 | フッ化物の応用方法を説明できる。 |
| 7 | 前田 恭子 | フッ化物の毒性 | フッ化物の毒性と急性中毒について説明できる。 |
| 8 | 前田 恭子 | 小窩裂溝填塞法 | 小窩裂溝填塞法について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|-------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 接遇 | | 担当講師 | 鳥宮 文 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | ファッションエステ業界の教員がわかりやすく細やかに対応することができる | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | デンタルスタッフのためのクリニカルマナー | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 患者さんの欲求水準が多様化・複雑化しており、来院する患者さんの満足度に対応しきれない時代を迎えています。歯科衛生士として、通常業務の応対や作法のなかで接遇の大切さについて学びます。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|-------------|--|
| 1 | 鳥宮 文 | マナーとホスピタリティ | マナーの歴史と意味 ビジネスマナーの概念 ホスピタリティと満足度 |
| 2 | 鳥宮 文 | 身だしなみと第一印象 | 医療現場の身だしなみ 第一印象が影響するもの 好印象を与える女性 |
| 3 | 鳥宮 文 | 言葉遣い | 正しい日本語(敬語) 言葉が与える影響 話し言葉と書き言葉 |
| 4 | 鳥宮 文 | 受付対応 | 受付の必要性和機能 受付の基礎知識と業務 歯科医療の流れ |
| 5 | 鳥宮 文 | 電話対応 | 電話のかけ方、受け方 電話での予約、質問に対するロールプレイ |
| 6 | 鳥宮 文 | クレーム対応 | 患者様満足度とクレームの関係 患者様欲求5段階 選ばれる歯科医院 |
| 7 | 鳥宮 文 | コミュニケーション | 受診者とコミュニケーションの役割 傾聴とコミュニケーション |
| 8 | 鳥宮 文 | 全体の流れ | 総合演習ロールプレイ |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--------|---------|
| 科目名 | 医療事務 I | | 担当講師 | 斉藤 亜花音 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 病院で医療事務業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 新人歯科衛生士・歯科助手 ポケットマニュアル | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 医療保険制度のしくみ、ならびに医療機関における健康保険点数の算出、レセプト作成、受付業務等について学習する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|----------|------------------------|
| 1 | 斉藤 亜花音 | 医療保険制度 | 医療機関と医事業務について説明できる |
| 2 | 斉藤 亜花音 | 医療保険制度 | 医療保険と保険診療のしくみを説明できる |
| 3 | 斉藤 亜花音 | 医療保険制度 | 診療報酬請求を理解する |
| 4 | 斉藤 亜花音 | 医療保険制度 | 医療保険の種類を理解する |
| 5 | 斉藤 亜花音 | 医療保険制度 | 老人保険制度、公費負担医療制度を理解する |
| 6 | 斉藤 亜花音 | 歯の基礎 | 口、歯のしくみについて理解する |
| 7 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 初診、再診の点数算定を理解する |
| 8 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 医学管理の点数算定を理解する |
| 9 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 画像診断の点数算定を理解する |
| 10 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 検査、リハビリテーションの点数算定を理解する |
| 11 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 投薬の点数算定を理解する |
| 12 | 斉藤 亜花音 | 基本診療 | 処置の点数算定を理解する |
| 13 | 斉藤 亜花音 | 演習(基本診療) | 症例ごとの点数算定を理解する |
| 14 | 斉藤 亜花音 | 演習(基本診療) | 症例ごとの点数算定を理解する |
| 15 | 斉藤 亜花音 | 演習(基本診療) | 症例ごとの点数算定を理解する |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 栄養学 | | 担当講師 | 油谷 裕子、高松 友香 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる管理栄養士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「栄養学」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 食物として摂取された栄養素の人の体内における変化過程など、その生理学的意義や変化に伴うエネルギー収支や栄養価等について、特に五大栄養素を中心に基礎的なことを学び、歯科診療活動の一環として、食生活上の改善を必要とする対象者に対し、系統的、かつ科学的な指導ができるための知識を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|----------------|--|
| 1 | 高松 友香 | 栄養素の基礎知識 | 栄養素の種類と主な働き及び消化吸収が説明できる。 |
| 2 | 高松 友香 | 栄養素の消化・吸収 | 栄養素の消化・吸収の仕組みを説明できる。 |
| 3 | 高松 友香 | 必要エネルギーと基礎代謝 | エネルギー必要量と基礎代謝について説明できる。 |
| 4 | 高松 友香 | 日本人の食事摂取基準 | 日本人の食事摂取基準の意味と意義を理解し、推定エネルギー必要量を求める事ができ、脂肪のエネルギー比率の重要性が説明できる。 |
| 5 | 高松 友香 | 糖質 | 糖質の種類や食品との関係、体内での作用が説明できる。う蝕との関連を説明できる。 |
| 6 | 高松 友香 | 糖質の続き | |
| 7 | 高松 友香 | たんぱく質 | たんぱく質の栄養的特徴を理解し、その栄養価を求めることができる。 |
| 8 | 高松 友香 | 脂質 | 動物性脂肪・植物性脂肪の相違点や、飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸の特徴が説明できる。 |
| 9 | 油谷 裕子 | ビタミン | ビタミンの種類とその特徴・体内での作用や欠乏症が説明できる。各種のビタミンを含有する食品を挙げることができる。 |
| 10 | 油谷 裕子 | ビタミンの続き 無機質 | 無機質の種類と作用や・欠乏症などが説明でき、特にカルシウムや鉄など日本人に不足しがちな無機質については多く含有する食品を挙げることができる。 |
| 11 | 油谷 裕子 | 無機質の続き | |
| 12 | 油谷 裕子 | 食生活の概要 | 正しい食生活の形成に必要な要素(食欲・嗜好・咀嚼・間食)などの基本的なことを把握しており、食生活とう蝕・歯周疾患の関係を説明できる。 |
| 13 | 油谷 裕子 | 食品 | 食品に含まれる栄養素の化学・機能を理解し、正しい食生活の実践の必要性を説明できる。 |
| 14 | 油谷 裕子 | 食品のう蝕誘発性 | 砂糖と歯垢形成、う蝕、歯周疾患の関連性や代用甘味料によるう蝕予防について説明できる。 |
| 15 | 油谷 裕子 | 咀嚼と食品 | 咀嚼の生理的意義や正しい食生活との関連性を説明できる。咀嚼と歯科疾患との関連についても説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 障害者補助 | | 担当講師 | 畠山 晴美、水口 拓也 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 介護老人福祉施設、障害者福祉施設で介護福祉業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第1学年 後期 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 随時配布 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 身体障害者の歯科診療補助業務に必要な基本的知識、コミュニケーション手段(手話、点字)、介助技術、態度を習得する。 |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|---------------|---------------------------|
| 1 | 畠山 晴美 | 障害の理解 | 障害者とは ノーマライゼーションとは |
| 2 | 水口 拓也 | 手話でコミュニケーション1 | 手話による日常会話 |
| 3 | 水口 拓也 | 手話でコミュニケーション2 | 手話による日常会話 |
| 4 | 水口 拓也 | 手話でコミュニケーション3 | 歯科医院にろう者が来院したとき、手話で会話ができる |
| 5 | 水口 拓也 | 手話でコミュニケーション4 | 歯科医院にろう者が来院したとき、手話で会話ができる |
| 6 | 畠山 晴美 | 視覚障害者の介助1 | 視覚障害者の介助をすることができる |
| 7 | 畠山 晴美 | 視覚障害者の介助2 | 視覚障害者の介助をすることができる |
| 8 | 畠山 晴美 | 肢体不自由者の介助1 | 肢体不自由者の介助をすることができる |
| 9 | 畠山 晴美 | 肢体不自由者の介助2 | 肢体不自由者の介助をすることができる |
| 10 | 畠山 晴美 | 点字の実際 | 点字について理解を深める |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 色彩学 | | 担当講師 | 鳥宮 文 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | ファッションエステ業界の教員がわかりやすく細やかに対応することができる | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第1学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | なし | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 色彩を効用、効果、心理学、メンタルケア、アート、アロマセラピー等、様々な分野から学び、色彩分野を旅し理解を深める。 特に継続性のある介護生活を行えるよう介護を行う側の自己ケアの内容を付加し、お互いにより良い介護生活になるために必要なものを学ぶ。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 中間試験 並びに 定期試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(レポート) | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|------|---------------|------------------------------|
| 1 | 鳥宮 文 | オリエンテーション | 科目概要の確認、自己紹介を行う。 |
| 2 | 鳥宮 文 | 光と色 | 色の知覚特性と視覚変化について説明できる。 |
| 3 | 鳥宮 文 | ユニバーサルデザインの色彩 | ユニバーサルデザインについて学習する。 |
| 4 | 鳥宮 文 | 配色イメージ、配色歳時記 | 配色により得られるイメージ、配色歳時記について学習する。 |
| 5 | 鳥宮 文 | 色彩心理学 | 色彩が心理的に及ぼす影響を体験してみる。 |
| 6 | 鳥宮 文 | アートセラピー① | 精神的背景と現在を行き来する色彩について学習する。 |
| 7 | 鳥宮 文 | アートセラピー② | グループセッション、発表を行う。 |
| 8 | 鳥宮 文 | 自己ケアの重要性と方法① | 自己を見つめ、ケアの重要性について学習する。 |
| 9 | 鳥宮 文 | 自己ケアの重要性と方法② | 自己ケアの方法を実践する。 |
| 10 | 鳥宮 文 | アロマセラピー① | 香りの知覚と心身への影響について学習する。 |
| 11 | 鳥宮 文 | アロマセラピー② | オリジナルブレンド作りを実施する。 |
| 12 | 鳥宮 文 | タクティールケア | グループセッションを行う。 |
| 13 | 鳥宮 文 | 五感意識 | 現在の歯科環境と展望について学習する。 |
| 14 | 鳥宮 文 | 五感を意識した環境作り | 歯科診療における環境作りについて考察し、発表する。 |
| 15 | 鳥宮 文 | 授業のまとめ | レポート課題の概要 |

2025年度

2年生用シラバス

帯広コア専門学校

| | | | | | |
|--------|--------------|------|------------------------------------|------|---------|
| 科目名 | 英語コミュニケーションⅡ | | 担当講師 | 浦島 久 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる英語講師歴のある講師が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 英語は会話力 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科医療現場での歯科医師と患者の対話モデルを聞いて内容を理解することができる。実際の現場で英語によるコミュニケーションが図れるような英語力を身につける。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|-----------|--|
| 1 | 浦島 久 | 比較形 | 比較形について学習する |
| 2 | 浦島 久 | 前置詞① | 前置詞(in/on/at)の使い方について学習する |
| 3 | 浦島 久 | 前置詞② | 前置詞(under/next/to)の使い方について学習する |
| 4 | 浦島 久 | 形容動詞 | 形容動詞の使い方について学習する |
| 5 | 浦島 久 | 文化の違い | 日本と外国の文化の違いについて学習する |
| 6 | 浦島 久 | 実用英会話 | 誰の物、～が欲しい、～をしたいについて学習する |
| 7 | 浦島 久 | 手紙と日記の書き方 | 手紙と日記の書き方について学習する |
| 8 | 浦島 久 | アドバイス | アドバイス(～したらいいよ、～すればいいよ。～しないほうがいい)について学習する |

| | | | | | |
|--------|----------|------|------------------------------------|-------|---------|
| 科目名 | 歯科英語 | | 担当講師 | 夏堀 素子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 長期にわたる英語講師歴のある教員が、わかりやすく細やかに対応できる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科英語」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 英語の基本について復習し、来院・通院する外国人の患者と薬の飲み方や病歴の聞き取り等、治療に直接関わる内容や日常会話について英語によるコミュニケーションが取れるよう学習する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|---|--------------------------------------|
| 1 | 夏堀 素子 | Making an Appointment by Telephone Emergency Appointments | 電話の予約と緊急な予約について英語での会話を学習する。 |
| 2 | 夏堀 素子 | Requests for Medicine Asking the Patient to Describe Symptoms Informed Consent | 薬のリクエストと患者の症状を尋ねるのに英語での会話を学習する。 |
| 3 | 夏堀 素子 | Asking the Medical History Fluoride Treatment | 病歴の尋ね方、フッ素の取り扱い方(処置)について英語での会話を学習する。 |
| 4 | 夏堀 素子 | Tooth Brushing Instructinus for a child. Tooth Brushing Instructinos for a Adult | 大人と子どもの歯みがきの仕方について英語での説明を学習する。 |
| 5 | 夏堀 素子 | Postoperative Instructions to the Patient After Treatment | 診察後の説明について英語での会話を学習する。 |
| 6 | 夏堀 素子 | Important Vocabulary for Dental Hygienists | 歯科学の専門用語を学習する。 |
| 7 | 夏堀 素子 | Important Vocabulary for Dental Hygienists | 歯科学の専門用語を学習する。 |
| 8 | 夏堀 素子 | Important Vocabulary for Dental Hygienists | 歯科学の専門用語を学習する。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | X線写真読影法 | | 担当講師 | 吉川 修平 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生士のためのX線写真パーフェクトBOOK | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 撮影された各種レントゲン画像の正常像を理解し、異常像との違いを判断することにより臨床での診断力を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|---------------|----------------------------------|
| 1 | 吉川 修平 | デジタルレントゲン | デンタル画像の正常像を説明できる。 |
| 2 | 吉川 修平 | デジタルレントゲン | デンタル画像の正常像と異常像との違いを判断できる。 |
| 3 | 吉川 修平 | デジタルレントゲン | パノラマ画像の正常像を説明できる。 |
| 4 | 吉川 修平 | デジタルレントゲン | パノラマ画像の正常像と異常像との違いを説明できる。 |
| 5 | 吉川 修平 | デジタルとパノラマのまとめ | デンタル10枚(14枚)法のパノラマとの違いを比較し説明できる。 |
| 6 | 吉川 修平 | セファロ | 他の規格撮影された画像の解剖学的に名称を説明できる。 |
| 7 | 吉川 修平 | 臨床応用(1) | 異常像から口腔内の現状を異論することができる。 |
| 8 | 吉川 修平 | 臨床応用(2) | 主訴、口腔内写真、検査などに関連付けて各種疾患を予測できる。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 歯科放射線学 | | 担当講師 | 柴田 慶郎 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科放射線学を学び歯科衛生士が果たすべき役割を正しく認識し、自覚する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|-------------------|---|
| 1 | 柴田 慶郎 | 歯科医療と放射線 | 歯科診療においてX線検査の果たす役割を理解する。 X線の性質と生体への影響、放射線防護について理解する。 |
| 2 | 柴田 慶郎 | 歯科におけるX線検査 その1 | 口内法撮影の手順・種類を理解する。 |
| 3 | 柴田 慶郎 | 歯科におけるX線検査 その2 | 口内法撮影の手順・種類を理解する。 |
| 4 | 柴田 慶郎 | 口腔内X線撮影の実際 その1 | 撮影法、器具について理解する。 |
| 5 | 柴田 慶郎 | 口腔内X線撮影の実際 その2 | 口腔内X線写真の見方について理解する。 |
| 6 | 柴田 慶郎 | 口腔外X線撮影、特殊撮影 法 | 頭部X線撮影法、その他特殊撮影法、造影検査、 CTについて理解する。 |
| 7 | 柴田 慶郎 | パノラマX線撮影の実際 | 撮影法、器具について理解する。 パノラマX線写真の見方について理解する。 |
| 8 | 柴田 慶郎 | 写真処理と画像保管の実際 | 写真処理の方法と手順を理解する。 画像保管を説明し、実行する。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 感染予防 | | 担当講師 | 前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版「歯科衛生士のための感染予防スタンダード」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 感染症を理解し歯科治療における消毒と滅菌はどのように考えるかを理解する | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|----------------------|---------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | 標準予防策 | スタンダードプリコーションを説明できる |
| 2 | 前田 恭子 | 感染症とは | 病原体を理解し、全身に与える影響を説明できる |
| 3 | 前田 恭子 | 口腔内・外の消毒 | 口腔の特殊性を理解し、その消毒を説明できる |
| 4 | 前田 恭子 | 歯科器具・器械の滅菌と消毒 消毒法 | 滅菌・消毒・洗浄・除菌の違いを説明できる |
| 5 | 前田 恭子 | 滅菌法と廃棄物 | 滅菌法の種類を理解し正しい廃棄物の処理を説明できる |
| 6 | 前田 恭子 | 血液感染症 | 血液感染症を説明できる |
| 7 | 前田 恭子 | 感染症患者への対応 | 検査の流れと対応を説明できる |
| 8 | 前田 恭子 | 針刺し事故の対応 | 事故が起きた際の正しい対応を理解する |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|-------|---------|
| 科目名 | 救急看護 | | 担当講師 | 徳本 裕有 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で看護師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生士のための「看護学大意」第3版 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科衛生士が知っておくべき看護技術や必要な看護実務を習得し、地域医療活動における歯科衛生士の役割を理解する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|------------------------------------|---|
| 1 | 徳本 裕有 | 病院における歯科衛生士の役割 | 病院の診療所の異なる性質を理解し、他職種とのチームプレーにおける歯科衛生士の役割を説明できる。 |
| 2 | 徳本 裕有 | 看護の概念 | 身体的援助にでなく時代の医療ニーズである社会的、精神的側面を含んだ包括看護を理解する。 |
| 3 | 徳本 裕有 | バイタルサインについて | 生命徴候(体温、脈拍、呼吸、血圧、意識)の機能の正常と異常を説明できる。 |
| 4 | 徳本 裕有 | バイタルサイン測定の手技 | バイタルサイン測定をすばやく的確に行うことができる。 |
| 5 | 徳本 裕有 | 摂食 | 生命を維持していくために欠かせない栄養補給である“食べる”行動を通して“楽しく食べる”ことの重要性を説明できる。 |
| | | 患者への支援 | 対象となる患者の年齢に応じた適切な対応や援助ができる。 |
| 6 | 徳本 裕有 | その他の看護技術 | 薬物の種類、正しい投与方法について述べるができる。安全で安楽を保てる、効果的な罨法を持ちいることができる。 |
| 7 | 徳本 裕有 | 歯科衛生士に必要な看護実務 | 感染性疾患に対する対策としての綿密な観察や情報収集を行い、適切な対応ができる。歯科疾患以外の有病者(慢性疾患)への対応や診療の介助ができる。 |
| 8 | 徳本 裕有 | 地域社会における訪問看護のあり方と歯科衛生士の役割・保健・医療・福祉 | 在宅医療を必要とする社会的背景や制度とサービス体系を理解し、訪問看護の内容や歯科衛生士の役割を述べることができ、在宅ケアにかかわる関係職種と連携をとり役割を認識して協力して支援することの大切さを述べるができる。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 衛生行政・社会福祉 | | 担当講師 | 久保 晃利、松澤 直昭 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 社会福祉士の講師歴のある教員と、歯科医院で歯科医師業務を実践している教員がわかりやすく細やかに対応することができる | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ『保健・医療・福祉の制度』 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科疾患予防、保健指導を主な業務としている歯科衛生士の身分は、衛生行政と関連法にもとづいている。それらを正しく理解し、今後広がるであろう医療、福祉、行政との連携に伴う業務の拡大に対応できる知識を習得する。さらに社会における歯科衛生士の職務、役割を確認する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|----------------|--|
| 1 | 松澤 直昭 | 社会保障制度(概論) | 医療制度の目的とその概要を知る。 |
| 2 | 松澤 直昭 | 衛生行政 | 衛生行政の目的と沿革を知る。 |
| 3 | 松澤 直昭 | 衛生関連法 I | 法制概論と医師、歯科医師法について学ぶ。 |
| 4 | 松澤 直昭 | 衛生関連法 II | 歯科衛生士法とその業務について理解する。 |
| 5 | 松澤 直昭 | 衛生関連法 III | 歯科技工士法とその業務について理解する。 |
| 6 | 松澤 直昭 | 衛生関連法 IV | 医療関係職種について理解する。 |
| 7 | 松澤 直昭 | 衛生関連法 V | 医療法、その他医療関係職種に関連する法律を学ぶ。 |
| 8 | 久保 晃利 | 医療、介護、福祉の連携 I | 多職種連携、地域包括ケアを理解する。 |
| 9 | 久保 晃利 | 医療、介護、福祉の連携 II | 医療、介護、福祉行政の連携、連動性の重要性を確認する。 |
| 10 | 久保 晃利 | 社会保障制度の実際 | 医療保険、介護保険などの内容を知る。日本の社会保障制度の詳しい内容を学ぶ。 |
| 11 | 久保 晃利 | 社会保険について | 医療保険、介護保険などの内容を知る。 |
| 12 | 久保 晃利 | 社会福祉 I | 社会福祉の沿革と行政の組織について学ぶ |
| 13 | 久保 晃利 | 社会福祉 II | 生活保護、障がい者、高齢者の福祉制度を理解する |
| 14 | 松澤 直昭 | 保健医療の動向 | 国民の健康状況、医療施設、医療従事者の現況を学ぶ |
| 15 | 松澤 直昭 | これからの歯科衛生士の役割 | さまざまな制度や組織の中で、これからの歯科衛生士が、どのような働きをしてゆくか、検討していく |

| | | | | | |
|--------|----------|------|--|--------|---------|
| 科目名 | 歯科材料学 | | 担当講師 | 中原 奈緒美 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」「歯科材料」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯科疾患予防、保健指導を主な業務としている歯科衛生士の身分は、衛生行政と関連法にもとづいている。それらを正しく理解し、今後広がるであろう医療、福祉、行政との連携に伴う業務の拡大に対応できる知識を習得する。さらに社会における歯科衛生士の職務、役割を確認する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|--------|-------------|------------------------------------|
| 1 | 中原 奈緒美 | 歯科機器 | 歯科診療で使用する機器について説明できる |
| 2 | 中原 奈緒美 | 検査・診断・治療用機器 | 歯科の検査・診断・治療に用いられる機器の用途と特徴について説明できる |
| 3 | 中原 奈緒美 | 印象材 | 各種印象材の特性と使用法について説明できる |
| 4 | 中原 奈緒美 | 模型用材料 | 石膏の種類・用途・所要性質について説明できる |
| 5 | 中原 奈緒美 | 合着材・接着剤 | 合着材・接着剤の種類・成分・特性・所要性質について説明できる |
| 6 | 中原 奈緒美 | 成形修復材 | 成形修復材の種類・用途・接着機構について説明できる |
| 7 | 中原 奈緒美 | 仮封材 | 仮封材の種類・用途・取り扱いについて説明できる |
| 8 | 中原 奈緒美 | ワックス | ワックスの種類・用途・性質を説明できる |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|------------------|---------|
| 科目名 | 歯科補綴学 | | 担当講師 | 森 一成、高田 博雅、田中 義博 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常1「歯科補綴学」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 歯科治療の最終段階であることが多い歯科補綴治療にあつて歯科衛生士の役割は重要である。そこで、歯科補綴治療の目的と意義ならびに各種補綴装置の種類と適応を理解し、各臨床ステップでの歯科衛生士の役割を習得することを目標とする。 |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|------------------------------------|---|
| 1 | 森 一成 | 咀嚼障害・咬合異常 歯科補綴の概要 | 咀嚼障害と咬合異常を説明する。 補綴治療の意義、目的と特徴を説明する。 |
| 2 | 森 一成 | 基礎知識1 基礎知識2 | 歯列弓の形態と対合関係、基準平面を概説する。 顎口腔系の機能、咬合様式と顎運動を説明する。 |
| 3 | 森 一成 | 歯の欠損に伴う障害と治療1 歯の欠損に伴う障害と治療2 | 歯の欠損に伴う口腔内の変化と身体的障害を説明する。 歯の欠損に伴う心理的問題と社会的な影響を概説する。 |
| 4 | 森 一成 | 歯の欠損に伴う障害と治療3 歯の欠損に伴う障害と治療4 | 補綴治療に伴う合併症を説明する。 顎関節とその異常を説明する。 |
| 5 | 森 一成 | 補綴装置の種類とその構造1 補綴装置の種類とその構造2 | 固定性補綴装置について説明する。 可撤性補綴装置(有床義歯)について説明する |
| 6 | 田中 義博 | 補綴治療における検査・診断1 補綴治療における検査・診断2 | 医療面接と全身検査について説明する。 補綴治療に関わる各種検査を説明する。 |
| 7 | 田中 義博 | クラウン・ブリッジ治療の実際1 クラウン・ブリッジ治療の実際2 | クラウン治療の手順を説明する。 ブリッジ治療の手順を説明する。 |
| 8 | 田中 義博 | 有床義歯治療の実際1 有床義歯治療の実際2 | 全身的ならびに局所的検査項目を説明する。 治療の手順を診療室と技工室に分けて説明する。 |
| 9 | 田中 義博 | 補綴治療に用いられる器材1 補綴治療に用いられる器材2 | 切削・研磨用器材ならびに印象採得用器材を説明する。 咬合採得用器具ならびに人工歯について説明する。 |
| 10 | 田中 義博 | 補綴治療における歯科技工1 補綴治療における歯科技工2 | クラウン・ブリッジの製作を説明する。 有床義歯の製作を説明する。各種修理について説明する |
| 11 | 高田 博雅 | 検査・診断時の業務1 検査・診断時の業務2 | 補綴治療における歯科衛生士の役割を説明する。 検査器具・器材の用途ならびに取り扱いを説明する。 |
| 12 | 高田 博雅 | 治療時の業務1 治療時の業務2 | クラウン・ブリッジ治療の手順を説明する。 クラウン・ブリッジ治療で準備するものと補助内容を説明する。 |
| 13 | 高田 博雅 | 治療時の業務3 治療時の業務4 | 有床義歯治療の手順を説明する。 有床義歯治療で準備するものと補助内容を説明する。 |
| 14 | 高田 博雅 | 患者指導1 患者指導2 | クラウン・ブリッジ治療における患者教育を説明する。 有床義歯治療における患者教育を説明する。 |
| 15 | 高田 博雅 | インプラント治療の実際 患者指導3 器材管理 | インプラント治療の基本構造と概念ならびに手順を説明する。 インプラント治療における患者教育を説明する。 器具・機材の滅菌・消毒と感染予防について説明する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|---------------|---------|
| 科目名 | 歯科矯正学 | | 担当講師 | 今井徹、大熊信行、大和志郎 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常2 「歯科矯正」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 歯科矯正学を通して、生涯にわたり質の高いクオリティオブライフを国民がおくる事に寄与できる優れた歯科衛生士を輩出することを目標とする |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|---|---|
| 1 | 今井 徹 | I 編 歯科矯正学概論(1章) | 矯正歯科治療の目的、治療の流れ、必要性、ベネフィットとリスク、チーム医療、歯科衛生士の役割を説明できる |
| 2 | 今井 徹 | 成長発育(2章) | 全身の成長発育を説明できる頭蓋、顎顔面、歯、歯列、の成長発育、口腔機能の発達について説明できる |
| 3 | 今井 徹 | 正常咬合と不正咬合(3章) | 咬合、下顎運動、正常咬合を説明できる |
| 4 | 今井 徹 | 正常咬合と不正咬合(3章) | 不正咬合を説明出来る、Angleの不正咬合分類、不正咬合の原因、予防について説明できる |
| 5 | 今井 徹 | 矯正歯科診断(4章) | 矯正歯科診断に必要な検査、分析法、について説明できる |
| 6 | 大熊 信行 | 矯正治療と力(5章) 矯正力、顎整形力、保定 | 歯の移動と固定、組織反応、移動様式矯正力と顎整形力、保定、について説明できる |
| 7 | 大熊 信行 | 矯正装置(6章) | 可撤式矯正装置、固定式装置、機能的装置、拡大装置等について説明できる |
| 8 | 大熊 信行 | 矯正装置(6章) | 顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置について説明できる |
| 9 | 大熊 信行 | II 編 上下顎の前後的不調和(1章) | I 級、II 級1類、II 級2類、III 級不正咬合を説明できる |
| 10 | 大熊 信行 | 上下顎の垂直的不調和(2章) | 過蓋咬合、開咬を説明できる |
| 11 | 大和 志郎 | 成人矯正(3章) 口腔顎顔面形成異常と変形(4章) | 成人矯正治療の注意点、先天性疾患、顎変形症の矯正歯科治療について説明できる |
| 12 | 大和 志郎 | 歯の埋伏、歯数の異常(5章)トラブル(6章) 健康保険適用の矯正治療(7章) | 埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯、矯正治療におけるリスクトラブルへの対応、健康保険適用の矯正治療を説明できる |
| 13 | 大和 志郎 | III 編 診断、診療に関わる業務(1章、2章) | 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割、診断の為の資料、治療の為の器具、材料について説明できる |
| 14 | 大和 志郎 | 矯正歯科患者と口腔保健管理(3章) | 患者へのアプローチについて説明が出来る口腔衛生管理、保健指導について説明できる |
| 15 | 大和 志郎 | 口腔筋機能療法(4章) 器材、資料、文書の管理(5章) | MFTについて十分理解し、説明できる。器材の消毒・滅菌、管理、医療事務について説明できる。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 歯周治療学Ⅱ | | 担当講師 | 渡部 亘貴 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」第2版 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 歯周病の発現機序、診査、診断の学習と、臨床的な技術習得を目指すために、QOLの向上という社会性に着目し、職業理念の確立に結びつく実践的な知識と技術を理解する | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|-----------|---|
| 1 | 渡部 亘貴 | 歯周治療の進め方 | 歯周治療の基本的な流れを理解する |
| 2 | 渡部 亘貴 | 歯周疾患の検査 | 歯周病の検査の目的、方法について理解する |
| 3 | 渡部 亘貴 | 歯周基本治療 | 歯周基本治療の知識の習得と、衛生士のかかわりについて理解する |
| 4 | 渡部 亘貴 | 歯周基本治療 | 臨床例(スライド等)をみて、基本治療の流れと意義について理解する |
| 5 | 渡部 亘貴 | 歯周外科治療 | 歯周外科治療の術式や目的を理解する |
| 6 | 渡部 亘貴 | 歯周外科治療 | 臨床例(スライド、動画等)をみて、歯周外科の術式、および器具の種類と使用法を理解できる |
| 7 | 渡部 亘貴 | 歯周治療のリハビリ | 歯周治療における咬合・矯正・補綴治療の意義とその関連性について理解する |
| 8 | 渡部 亘貴 | メンテナンス | メンテナンスの重要性を理解し、歯周病治療全体の中の衛生士の役割について理解する |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|------|---------|
| 科目名 | 口腔外科学 | | 担当講師 | 鎌田 靖 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔学 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 口腔外科学と歯科麻酔学を学習する事により、歯科治療の根幹を理解し、かつ、歯科衛生士として業務を遂行する為の知識を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|------|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 | 鎌田 靖 | 口腔外科の概要 | 本項目について説明できる。また、歯科衛生士の役割についても説明できる。 |
| 2 | 鎌田 靖 | 口腔外科の概要 | 同上 |
| 3 | 鎌田 靖 | 先天異常と発育異常 | 本項目内容について説明できる。 |
| 4 | 鎌田 靖 | 損傷および機能障害 | 本項目内容について説明できる。 |
| 5 | 鎌田 靖 | 粘膜病変 | 本項目内容について説明できる。 |
| 6 | 鎌田 靖 | 化膿性炎症疾患 | 本項目内容について説明できる。 |
| 7 | 鎌田 靖 | 嚢胞性疾患 | 本項目内容について説明できる。 |
| 8 | 鎌田 靖 | 腫瘍および腫瘍類似疾患 唾液腺疾患・神経疾患 | 本項目内容について説明できる。 |
| 9 | 鎌田 靖 | 口腔外科診療の実際 | 診療内容を理解し、歯科衛生士としての役割を説明できる。 |
| 10 | 鎌田 靖 | 口腔外科診療の実際 | 同上 |
| 11 | 鎌田 靖 | 歯科治療と歯科麻酔 | 麻酔とチーム医療における歯科衛生士としての役割を説明できる。 |
| 12 | 鎌田 靖 | 歯科治療と歯科麻酔 | 麻酔法と救急蘇生法について説明できる。 |
| 13 | 鎌田 靖 | 臨床における 歯科衛生士のかかわり | 臨床時の様々な業務を説明できる。 |
| 14 | 鎌田 靖 | 臨床における 歯科衛生士のかかわり | 同上 |
| 15 | 鎌田 靖 | 臨床における 歯科衛生士のかかわり | 同上 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 小児歯科学 | | 担当講師 | 西本 毅士、北野 敏彦 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「小児歯科」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 小児は成長発達の途中であるため成人と異なった理解が必要であり、歯科臨床において歯科衛生士とのチーム診療が重要である。そのため小児の心身の特徴や診療補助における衛生士の対応法や役割を理解し習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|--------------------|-------------------------------|
| 1 | 西本 毅士 | 概論 | 小児歯科概論・小児歯科における歯科衛生士の役割を理解する。 |
| 2 | 北野 敏彦 | 心身の発育 顔面頭蓋の発育 | 小児の解剖学的・生理的特徴を理解する。 |
| 3 | 北野 敏彦 | 心身の発育 顔面頭蓋の発育 | 小児の解剖学的・生理的特徴を理解する。 |
| 4 | 西本 毅士 | 歯の発育と異常 | 乳歯の発生・萌出順序・萌出異常について理解する。 |
| 5 | 北野 敏彦 | 歯列・咬合の異常 | 乳歯列期の特徴・遺伝・環境による発育の異常を理解する。 |
| 6 | 西本 毅士 | 乳歯の特徴と齲蝕 | 乳歯と幼若永久歯の違い、乳歯齲蝕の特徴を説明できる。 |
| 7 | 西本 毅士 | 乳歯の特徴と齲蝕 | 乳歯と幼若永久歯の違い、乳歯齲蝕の特徴を説明できる。 |
| 8 | 北野 敏彦 | 小児に見られる歯周疾患 | 口腔軟組織に見られる異常疾患・歯周疾患を理解する。 |
| 9 | 西本 毅士 | 小児期における 歯科的問題点 | 小児期の特徴を理解し、治療における留意点を説明できる。 |
| 10 | 北野 敏彦 | 治療における流れと 患者対応 | 年齢別に小児の行動を理解し、対応できるようにする。 |
| 11 | 西本 毅士 | 小児歯科における 補助の原則 | 小児歯科における歯科診療補助者としての原則を理解する。 |
| 12 | 西本 毅士 | 審査・修復・歯内療法 | 小児歯科における治療、材料、手順を理解する。 |
| 13 | 西本 毅士 | 審査・修復・歯内療法 | 小児歯科における治療、材料、手順を理解する。 |
| 14 | 北野 敏彦 | 外科的処置・咬合誘導 リコール | それぞれの適応症・処置内容を理解する。 |
| 15 | 西本 毅士 | 障害児の歯科診療 | 障害児の概念・特徴を理解し基本的対応を理解する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|------------|---------|
| 科目名 | 歯科衛生統計学 | | 担当講師 | 海野 学、小西 隆司 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」 |
| 参考書 | |
| 一般目標 | 日常臨床や公衆衛生の場での口腔衛生活動を評価するために、公衆衛生・保健活動および統計的処理を習得する。 |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに筆記試験・平常点・提出物・その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|----------|------------------------------|
| 1 | 海野 学 | 公衆歯科衛生 | 公衆歯科衛生について説明することができる |
| 2 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 地域歯科保健活動(総論)について説明することができる |
| 3 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 集団検診と事後措置について説明することができる |
| 4 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 保険教育の目的と実際について説明することができる |
| 5 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 母子歯科保健の意義と活動について説明することができる |
| 6 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 学校保健における歯科の意義について説明することができる |
| 7 | 海野 学 | 地域歯科保健活動 | 職域における歯科の活動について説明することができる |
| 8 | 小西 隆司 | 地域歯科保健活動 | 成人歯科保健活動について説明することができる |
| 9 | 小西 隆司 | 地域歯科保健活動 | 老人歯科保健について説明することができる |
| 10 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 疫学について説明することができる |
| 11 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 歯科領域における疫学について説明することができる |
| 12 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 歯科領域における疫学について具体的に説明することができる |
| 13 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 標本調査について説明することができる |
| 14 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 実際に歯科統計処置について説明することができる |
| 15 | 小西 隆司 | 歯科疾患の疫学 | 歯科統計処置を行うことができる |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|------|---------|
| 科目名 | 高齢者歯科学 | | 担当講師 | 大内 学 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 高齢者の健康維持を目的に、人間の老化及び高齢化を学び、包括的歯科医療、術前、術後の補助及び歯科口腔衛生指導のありかたを習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|------|---------------------|--|
| 1 | 大内 学 | 高齢者について | 高齢社会の現状と社会保障制度について学ぶ |
| 2 | 大内 学 | 全身並びに口腔の加齢変化 | 心身ならびに口腔領域の加齢変化について学ぶ |
| 3 | 大内 学 | 高齢者と全身疾患 | 高齢者に頻度の多い疾患や薬剤と歯科的関連について学ぶ |
| 4 | 大内 学 | 高齢者の歯科治療 | 高齢者の歯科治療の特徴や留意点について学ぶ |
| 5 | 大内 学 | 訪問診療 | 通院困難者への対応や歯科の役割について学ぶ |
| 6 | 大内 学 | 高齢者の摂食・嚥下とリハビリテーション | 摂食・嚥下のメカニズムや誤嚥性肺炎について学ぶ |
| 7 | 大内 学 | 口腔ケア | 口腔ケアの役割、必要性について学ぶ |
| 8 | 大内 学 | 高齢者歯科の実際 | 実際の高齢者の歯科治療について学ぶとともにこれまでの講義内容について理解を深める |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 障害者歯科学 | | 担当講師 | 菱沼 直弘 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | スペシャルニーズの現状を理解し、歯科衛生士としてその人のQOLの向上に寄与する重要な役割を理解・習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 菱沼 直弘 | 障害の概念 | 障害の概念を知る。 |
| 2 | 菱沼 直弘 | 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 | 障害の種類を知り、対応を理解する。 |
| 3 | 菱沼 直弘 | 障害者の歯科医療と行動調整 | 障害者とのコミュニケーション方法と行動調整について理解する。 |
| 4 | 菱沼 直弘 | 健康支援と口腔衛生管理 | 障害者の口腔衛生管理について理解する。 |
| 5 | 菱沼 直弘 | リスク評価と安全管理 | 障害者歯科におけるリスク評価と安全管理について理解する。 |
| 6 | 菱沼 直弘 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 | 摂食嚥下リハビリテーションについて理解し、歯科衛生士の役割を知る。 |
| 7 | 菱沼 直弘 | 地域における障害者歯科 | 地域における障害者歯科について知る。 |
| 8 | 菱沼 直弘 | 障害者歯科における歯科衛生過程 | 障害者歯科における歯科衛生過程から、歯科衛生業務の意義を理解する。 |

| | | | | | |
|--------|---|-------------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 90時間(45回) | 単位数 | 3単位 | 履修時期 | 第2学年 前期・後期 |
| 教科書 | 医歯薬出版歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 | | | | |
| 一般目標 | 口腔疾患を予防するために、口腔状況に適した予防処置を選択できる知識を身に付け、基本操作を行える技術・態度を身に付ける。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | | |
| 1 | 藤村 孝江 | シックルスケーラー1 | ファントム上で下顎3～3、上顎3～3の操作を実施する。 | | |
| 2 | | | 歯面研磨を実施する。 | | |
| 3 | 藤村 孝江 | シックルスケーラー2 | ファントム上で左上下4～7の操作を実施する。 | | |
| 4 | | | 歯面研磨を実施する。 | | |
| 5 | 藤村 孝江 | シックルスケーラー3 | ファントム上で右上下4～7の操作を実施する。 | | |
| 6 | | | 歯面研磨を実施する。 | | |
| 7 | 藤村 孝江 | 位相差顕微鏡 | 位相差顕微鏡を用いてプラークを観察してみる | | |
| 8 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー1 | ファントム上で上下顎3～3の操作を実施する。 | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー2 | ファントム上で左上下4～7の操作を実施する。 | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー3 | ファントム上で右上下4～7の操作を実施する。 | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | 藤村 孝江 | シャープニング① | スケーラーの原型を維持し、切れ味を復元する。 | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | 藤村 孝江 | 口腔内の観察① | 相互でプロービングを行う | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | 中原 奈緒美 | シックルスケーラー4 | 相互でシックルスケーラーを用いてスケーリングを行う | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | 中原 奈緒美 | シックルスケーラー5 | 相互でシックルスケーラーを用いてスケーリングを行う | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | 中原 奈緒美 | シックルスケーラー6 | 相互でシックルスケーラーを用いてスケーリングを行う | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | 前田 恭子 | う蝕活動性試験① | う蝕活動性試験を実施する。 | | |
| 25 | 藤村 孝江 | 歯面研磨① | 相互で歯面研磨を実施する。 | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | 前田 恭子 | う蝕活動性試験② | う蝕活動性試験の結果をもとに予防プログラムを作成する | | |
| 28 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー4 | 相互でキュレットスケーラーを用いてスケーリングを行う | | |
| 29 | | | | | |

| 科目名 | 歯科予防処置Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|---------|------------------------------|---|-----------------|
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | |
| 30 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー5 | 相互でキュレットスケーラーを用いてスケーリングを行う | |
| 31 | | | | |
| 32 | 藤村 孝江 | キュレットスケーラー6 | 相互でキュレットスケーラーを用いてスケーリングを行う | |
| 33 | | | | |
| 34 | 藤村 孝江 | 機械的除石 エアスケーラー 超音波スケーラー | 模型上でエアスケーラー・超音波スケーラーの操作を行う。 | |
| 35 | | | | |
| 36 | 中原 奈緒美 | 機械的除石 エアスケーラー 超音波スケーラー | 相互でエアスケーラー・超音波スケーラーの操作を行う。 | |
| 37 | | | | |
| 38 | 藤村 孝江 | 歯面研磨② | ・歯面清掃器の目的・用途・利点・欠点を理解し正しい操作法を学ぶ。 ・エアフローを用いて歯面研磨を相互で行う。 | |
| 39 | | | | |
| 40 | 藤村 孝江 | フッ化物局所応用法 | 相互でフッ素塗布を行う | |
| 41 | 中原 奈緒美 | 口腔内の観察② | 相互でプロービングを行う | |
| 42 | | | | |
| 43 | 前田 恭子 | シャープニング② | スケーラーの原型を維持し、切れ味を復元する。 | |
| 44 | 藤村 孝江 | PMTC | 目的・方法を認識し、相互でPMTCを行う | |
| 45 | | | | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科保健指導Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 90時間(45回) | 単位数 | 3単位 | 履修時期 | 第2学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 参考書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「口腔保健管理」「保健生態学」 | | | | |
| 一般目標 | ライフステージにおける、歯科保健行動の要点をふまえた上で、対象に応じた問題解決のための指導法を選択できる知識・技術を習得し、相手に共感しながら指導することができる。 | | | | |
| 学習方法 | 講義・演習・実習・その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験・平常点・提出物・その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---------------------------|--------|-------------------------|---|
| 1 | 前田 恭子 | 歯科保健指導法 (妊産婦・乳幼児期) | 妊産婦・乳幼児期の歯科保健指導法を説明する。 幼児期の歯科保健指導法を説明する。 |
| 2 | 前田 恭子 | 歯科保健指導法 (妊産婦・乳幼児期) | 妊産婦・乳幼児期の歯科保健指導法を説明する。 幼児期の歯科保健指導法を説明する。 |
| 4 | 前田 恭子 | 小集団指導1 (幼児の指導法) | 保育園や幼稚園での小集団のポイントを説明する。 |
| 5 | 前田 恭子 | 小集団指導2 (幼児原稿作成) | 指導計画を立案し、原稿を作成する。 |
| 6-7 8-9 10-11 12 | 中原 奈緒美 | 小集団指導3 (幼児原稿作成) | 指導原稿に即した媒体を検討し、作成する。 |
| 13 | 前田 恭子 | 小集団指導4 | 1年生に幼児用の指導を披露する |
| 14 15 | 藤村 孝江 | 小集団指導5 | 小集団指導時のまとめと反省を行う |
| 16-17 18-19 | 藤村 孝江 | 口腔内写真1 | 口腔内写真をファントム上で撮影する |
| 20-21 22-23 | 藤村 孝江 | 口腔内写真2 | 相互で口腔内写真を実施する |
| 24 25 | 前田 恭子 | 歯科保健指導法 (学童・思春期) | 学童・思春期の歯科保健指導法を説明する。 |
| 26 | 前田 恭子 | 歯科保健指導法 (成人期) | 成人期の歯科保健指導法を説明する。 |
| 27 28 | 前田 恭子 | 歯科保健指導法 (老年期・要介護老年期) | 老年期・要介護老年期の歯科保健指導法を説明する。 |
| 29 30 | 前田 恭子 | アセスメント1 | 症例に基づいてケアプランを立てる |
| 31 32 | 前田 恭子 | アセスメント2 | 症例に基づいてケアプランを立てる |
| 33 34 | 前田 恭子 | アセスメント3 | 症例に基づいてケアプランを立てる |
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
| 35 | | | |

| 科目名 | 歯科保健指導Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|---------|--------------|---|-----------------|
| 36 | 前田 恭子 | 歯周疾患に対する検査法1 | 一般検査(PD・PMA・モビリティ・CT・OHI・PCR)の理解を深め実施する | |
| 37 | 前田 恭子 | 口腔内写真3 | 相互で口腔内写真撮影を行う | |
| 38 | 前田 恭子 | アセスメント4 | 相互で情報収集を行い、ケアプランを立てる | |
| 39 | | | | |
| 40 | 前田 恭子 | アセスメント5 | 相互実習で立てたケアプランを実施する | |
| 41 | | | | |
| 42 | 前田 恭子 | 歯周疾患に対する検査法2 | 一般検査(PD・PMA・モビリティ・CT・OHI・PCR)の理解を深め実施する | |
| 43 | 前田 恭子 | アセスメント6 | 相互で情報収集を行い、ケアプランを立てる | |
| 44 | 前田 恭子 | アセスメント7 | 相互実習で立てたケアプランを実施する | |
| 45 | 前田 恭子 | 症例検討会 | 各患者の情報収集・情報整理し、ケアプランを発表する | |

| | | | | | |
|--------|------------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を實踐していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 120時間(60回) | 単位数 | 4単位 | 履修時期 | 第2学年 前期・後期 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助」 |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯科材料の知識と取り扱い」「歯科器械の知識と取り扱い」 |
| 一般目標 | 歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、診療補助を円滑に行うための知識・技術・態度を身に付ける。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|-----------|---------------------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | 全身疾患1 | 全身疾患のある患者の歯科診療補助について理解する |
| 2 | 前田 恭子 | 全身疾患2 | 全身疾患のある患者の歯科診療補助について理解する |
| 3 | 中原 奈緒美 | アシスタントワーク | 基本的なバキュームテクニックを実施する |
| 4 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング1 | コンポジットレジン修復に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 5 | | | |
| 6 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング2 | 歯冠修復(インレー)時に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 7 | | | |
| 8 | 中原 奈緒美 | 単純印象採得 | アルジネート印象材による概形印象採得を実施する。 |
| 9 | | | |
| 10 | 中原 奈緒美 | 模型用材料 | 概形印象に石膏を注入し、模型のトリミングを行う |
| 11 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング3 | 歯冠修復(クラウン、ブリッジ)時に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 12 | | | |
| 13 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング4 | 歯内療法(抜髄)に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 14 | | | |
| 15 | 前田 恭子 | 歯内療法 | ・ブローチを用いて綿栓を作成する ・リーマーの種類、用途を説明できる |
| 16 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング5 | 歯内療法(根管治療)に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 17 | | | |
| 18 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング6 | 歯内療法(根管充填)時に必要な器具、器材セッティングを実施する |
| 19 | | | |
| 20 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング7 | 外科的処置(抜歯)時に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 21 | | | |
| 22 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング8 | 外科的処置(フラップ)時に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 23 | | | |
| 24 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング9 | 補綴治療(義歯)時に必要な器具、器材の準備を実施する |
| 25 | | | |
| 26 | 中原 奈緒美 | 連合印象採得1 | 片顎トレーを用いて模型上で寒天・アルジネート連合印象採得を実施する |
| 27 | | | |

| 科目名 | 歯科診療補助Ⅱ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|----------------|---------|---------------|--|-----------------|
| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 | |
| 28 | 中原 奈緒美 | 連合印象採得2 | 片顎トレー、圧排糸を用いて寒天・アルジネート連合印象採得を実施する。 | |
| 29 | | | | |
| 30 | 中原 奈緒美 | 連合印象採得3 | 全顎トレーを用いて寒天・アルジネート連合印象を実施する | |
| 31 | | | | |
| 32 | 藤村 孝江 | 咬合採得 | パラフィンワックス、シリコーンゴムを用いて咬合採得を実施する。 | |
| 33 | | | | |
| 34 | 藤村 孝江 | 連合印象採得4 | 個人トレーを製作する | |
| 35 | | | | |
| 36 | 中原 奈緒美 | 連合印象採得5 | シリコーンゴム印象材を用いて精密印象採得を実践する | |
| 37 | | | | |
| 38 | 前田 恭子 | 外科的処置 | 抜歯鉗子の用途を説明できる | |
| 39 | 前田 恭子 | 矯正治療 | 矯正治療に使う器材の用途を説明できる | |
| 40 | 藤村 孝江 | 歯科補綴 | 咬合検査と顎関節の検査に使用する器材を説明できる | |
| 41 | 藤村 孝江 | 暫間被覆冠1 | 暫間被覆冠の目的、種類、作成方法を説明できる | |
| 42 | 中原 奈緒美 | 暫間被覆冠2 | 既成冠を使わずに、暫間被覆冠を作製する | |
| 43 | | | | |
| 44 | 中原 奈緒美 | 小児における歯冠修復 | 乳歯用既製金属冠を用いて歯冠修復を模型上で実践する | |
| 45・46 47・48 | 藤村 孝江 | 情報分析のためのデータ | <ul style="list-style-type: none"> ・相互実習でX線写真撮影の補助を実施する ・咬翼法、咬合法、オルソパントモ、二等分法の撮影方法を説明できる | |
| 49 | 中原 奈緒美 | 歯間分離用器材 | 歯間分離法を相互で実施する。 | |
| 50 | 中原 奈緒美 | コンポジットレジン | コンポジットレジンの取り扱いを説明する。 | |
| 51 | | | コンポジットレジンの取り扱いを実施する。 | |
| 52 | 中原 奈緒美 | ガラスアイオノマーセメント | ガラスアイオノマーセメントの取り扱いを説明する。 | |
| 53 | | | ガラスアイオノマーセメントの取り扱いを実施する。 | |
| 54 | 中原 奈緒美 | 仕上げ研磨 | 各種歯冠修復材の仕上げ研磨を実施する。 | |
| 55 | 中原 奈緒美 | 歯肉包帯材① | <ul style="list-style-type: none"> ・歯肉包帯材の取り扱いを説明する。 ・各種歯肉包帯材の取り扱いを実施する。 | |
| 56 | 中原 奈緒美 | 感染予防対策 | 外科処置時の感染予防対策について述べる。 | |
| 57 | 中原 奈緒美 | 偶発事故の防止① | <ul style="list-style-type: none"> ・偶発事故の防止とその対策について述べる。 ・医療従事者との連携を学ぶ。 | |
| 58 | 中原 奈緒美 | 偶発事故の防止② | ・歯科麻酔時の診療補助 | |
| 59 | 中原 奈緒美 | 医療安全管理1 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における救急対応を説明できる ・在宅訪問診療の流れと留意点を述べる。 | |
| 60 | 中原 奈緒美 | 医療安全管理2 | <ul style="list-style-type: none"> ・現場で起こりうるヒヤリハットを述べる。 ・ヒヤリハットについて具体例を説明する。 ・全身疾患をもつ患者への対応を説明する。 | |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------------|---------|
| 科目名 | 臨床検査法 | | 担当講師 | 松田 博道、前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 病院で臨床検査技師業務、歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 「臨床検査」 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 高齢者、有病者の診療にあたっては患者の全身状態を把握しておくことが必須の前提である。日常診療に要求される基本的検査を中心に検査についての理解が得られるように知識・技術を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|---|-------|--------------|--|
| 1 | 松田 博道 | 総論 | 臨床検査の必要性、種類を学ぶ。 |
| 2 | 松田 博道 | 生理検査 尿検査 | 検温・脈拍・血圧・ホメオスタシスについて説明できる。 尿検査の意義、正常値を理解する。 |
| 3 | 松田 博道 | 血液検査 血液型 | 血液と血液型について説明できる。 |
| 4 | 松田 博道 | 貧血 出血性素因 | 貧血の仕組み・種類を理解する。 出血性素因を知り、スクリーニング検査について知る。 |
| 5 | 松田 博道 | 感染症 肝機能検査 | 感染症・肝機能について理解し、それぞれの検査法について説明できる。 |
| 6 | 松田 博道 | 糖尿病 病理検査 | 病態を知り、検査法・その意義を理解する。 |
| 7 | 前田 恭子 | 口腔領域の検査 | 種類やそれぞれの意味・方法を理解する。 |
| 8 | 前田 恭子 | 歯周組織の検査 | 検査法・意味を理解する。 |

| | | | | | |
|--------|----------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 医学一般 | | 担当講師 | 前田 恭子 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 15時間(8回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」 | | | | |
| 参考書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助」 | | | | |
| 一般目標 | 高齢化社会を迎え、個々の患者の持つ全身疾患の基礎的事項を学ぶ。 それより医科・歯科・介護を含めた他職種連携について理解する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|--------------|----------------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | 全身疾患の知識の目的 | なぜ歯科衛生士に全身疾患の知識が必要かを理解する |
| 2 | 前田 恭子 | 代謝・内分泌疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 3 | 前田 恭子 | 消化器疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 4 | 前田 恭子 | 循環器疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 5 | 前田 恭子 | 免疫・神経疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 6 | 前田 恭子 | 呼吸器疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 7 | 前田 恭子 | 腎・泌尿器疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 8 | 前田 恭子 | 免疫・膠原病 | 歯科との関わりを説明できる |
| 9 | 前田 恭子 | 感染症1 | 歯科との関わりを説明できる |
| 10 | 前田 恭子 | 感染症2 | 歯科との関わりを説明できる |
| 11 | 前田 恭子 | 神経疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 12 | 前田 恭子 | 精神疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 13 | 前田 恭子 | がん | 歯科との関わりを説明できる |
| 14 | 前田 恭子 | 妊娠、産科・婦人科疾患 | 歯科との関わりを説明できる |
| 15 | 前田 恭子 | 検査値 救急蘇生法 | 検査値の意味を理解する 歯科における緊急時の対応を理解する |

| | | | | | |
|--------|----------------------|------|---|------|---------|
| 科目名 | 臨床実習 | | | | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務をを実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 担当講師 | 臨床実習講師(歯科医師)・指導歯科衛生士 | | | | |
| 授業時間 | 360時間 | 単位数 | 8単位 | 履修時期 | 第2学年 後期 |

| | |
|------|---|
| 一般目標 | 学内で身に付けた基礎知識・技術を臨床に結び付け、患者へ考慮した歯科疾患の予防管理・歯科診療補助を行うために、診療・術式の流れに適した対応と実践できる能力を身に付けるための知識・技術・態度を習得する。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 指導者(歯科医師・歯科衛生士)による実技評価を行う |

| 担当者 | 行動目標 |
|-----|-------------------------------------|
| | ① 服装は清潔な印象を与える |
| | ② 髪の毛は決められた通りの始末ができる。 |
| | ③ 患者およびスタッフに対し、適切な行動・言葉遣いをする。 |
| | ④ 実習中は私語を慎み、意欲的に取り組む。 |
| | ⑤ 指示されたことに責任を持って行動する。 |
| | ⑥ 実習施設のルールを守る。 |
| | ⑦ 医療人である自覚を持って行動する。(守秘義務など) |
| | ⑧ 患者やスタッフと良好なコミュニケーションを図る。 |
| | ⑨ 報告、連絡、相談を行う。 |
| | ⑩ 適切な言葉遣いと会話を行う。 |
| | ⑪ 指示されたことに責任を持って行動する。 |
| | ⑫ 処置に応じた治療の流れを把握して、器具・器材の準備をする。 |
| | ⑬ 処置に応じた治療の流れを把握して、歯科診療補助・介助をする。 |
| | ⑭ 対象に応じた処置内容を理解している。 |
| | ⑮ 院内感染対策を実践する。 |
| | ⑯ 偶発事故の対処をする。 |
| | ⑰ 器具の性質に応じた消毒、滅菌の方法を実践し、院内感染を予防できる。 |
| | ⑱ 実習レポートは内容を適切に記録する。 |
| | ⑲ 提出期限を守る。 |
| | ⑳ 体調を整え自己管理をする。 |

2025年度

3年生用シラバス

帯広コア専門学校

| | | | | | |
|--------|--------------|------|---|-------|---------|
| 科目名 | 口腔機能・摂食機能訓練法 | | 担当講師 | 平野 尚美 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第3学年 前期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生士のための「摂食嚥下リハビリテーション」 | | | | |
| 参考書 | ①「口から食べる 嚥下障害Q&A」 藤島一郎 中央法規 ②「認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション」 野原幹司 南山堂 | | | | |
| 一般目標 | 口腔の機能を理解し、摂食嚥下障害のある方にたいする具体的な食支援のアプローチ法を学ぶとともに、専門的な口腔ケアの方法を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|-------|-----------------|---|
| 1 | 平野 尚美 | 摂食嚥下リハビリテーション概要 | 摂食嚥下のリハビリテーションの必要性 チームとして活動する目的と役割を理解する。 |
| 2 | 平野 尚美 | 口腔の構造と機能 | 口腔の構造と機能を理解し、摂食嚥下の5期モデルから正常な摂食嚥下運動について説明ができる。 |
| 3 | 平野 尚美 | 全身疾患と口腔機能 | 摂食嚥下障害を引き起こす疾患について説明できる。 |
| 4 | 平野 尚美 | 摂食嚥下機能の低下 | 加齢による口腔内の変化と摂食嚥下機能の低下がもたらす障害について説明ができる。 |
| 5 | 平野 尚美 | 摂食嚥下機能の評価法 | スクリーニングテスト・頸部聴診法・嚥下内視鏡・嚥下造影法を理解する。 |
| 6 | 平野 尚美 | 摂食嚥下障害の診断 | 摂食嚥下障害の重症度と治療の流れについて理解する。 |
| 7 | 平野 尚美 | 口腔ケア ① | 口腔ケアの目的、認知症の方の口腔ケアを理解する。 |
| 8 | 平野 尚美 | 摂食嚥下の訓練 ① | 間接訓練を理解し、その方法を習得する。 |
| 9 | 平野 尚美 | 摂食嚥下の訓練 ② | 直接訓練を理解し、その方法を習得する。 |
| 10 | 平野 尚美 | 栄養管理とリスク管理 | 栄養管理の方法および誤嚥性肺炎や窒息などのリスク管理の方法を理解する |
| 11 | 平野 尚美 | 食支援① | 摂食嚥下障害のある方の食事姿勢・食形態・食事介助の方法を理解し説明できる。 |
| 12 | 平野 尚美 | 食支援② | 摂食嚥下障害のある方の食事姿勢・食形態・食事介助の方法を理解し説明できる。 |
| 13 | 平野 尚美 | 歯科衛生ケアプロセス ① | SOAPIEを理解し説明できる。 |
| 14 | 平野 尚美 | 歯科衛生ケアプロセス ② | 口腔ケアアセスメント・ケアプランの立案・評価ができる。 |
| 15 | 平野 尚美 | 多職種連携 | 「生きることは食べること」を支える多職種連携について理解する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅲ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第3学年 前期、後期 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 歯葉出版 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」第2版 |
| 一般目標 | 口腔疾患を予防し、口腔保健の向上を援助する専門職の立場として、歯科予防処置を行うために、患者に配慮しながら歯科衛生士業務を行える知識・技術・態度を習得する。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|--------------|-------------------------------|
| 1 | 前田 恭子 | う蝕予防機序1 | う蝕予防機序について熟知する |
| 2 | 前田 恭子 | う蝕予防機序2 | う蝕活動試験で予防プログラムを設計する |
| 3 | | | |
| 4 | 藤村 孝江 | 位相差顕微鏡 | 位相差顕微鏡で口腔細菌を観察する |
| 5 | 前田 恭子 | 超音波スケーラー | 超音波スケーラー操作を熟練する |
| 6 | | | |
| 7 | 前田 恭子 | 歯面研磨 | 歯面研磨操作を熟練する |
| 8 | | | |
| 9 | 前田 恭子 | シャープニング | スケーラーの原型を維持し、切れ味を復元する。 |
| 10 | 藤村 孝江 | 予防処置法1 | ライフステージに合わせた歯科予防処置を考える |
| 11 | 藤村 孝江 | 予防処置法2 | ライフステージに合わせたフッ化物の応用を考える |
| 12 | 中原 奈緒美 | 相互実習 PMTC | 歯周の健康状態を熟知し、その為の予防法を説明できる。 |
| 13 | | | |
| 14 | 前田 恭子 | 相互実習 PMTC | 歯周に対して、メンテナンスの歯周治療の位置づけを説明する。 |
| 15 | | | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科保健指導Ⅲ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第3学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 参考書 | 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 | | | | |
| 一般目標 | 様々なライフステージに対応しうる、歯科保健指導に必要な知識・技術・態度を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|----|--------|-----------|---|
| 1 | 前田 恭子 | 歯科衛生過程1 | 歯周の健康状態を熟知し、その為の予防法を説明できる。 |
| 2 | | | 歯周に対して、メンテナンスの歯周治療の位置づけを説明する。 |
| 3 | 前田 恭子 | 歯科衛生過程2 | 歯科衛生過程に当てはめ症例発表会の準備を行う |
| 4 | | | |
| 5 | 藤村 孝江 | ライフステージ | ライフステージに沿った歯科保健指導を熟知する |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | 前田 恭子 | 歯科保健指導総論 | 患者指導時、これまで培ってきた知識・技術・態度を十分に活かすことができるよう、自らの考えを整理し、他者に分かり易く明確に伝える。患者の口腔衛生を担う立場として、患者の意見を尊重し、問題提起をし、解決する方法を責任を持って自らの力で考える。 |
| 9 | | | |
| 10 | 前田 恭子 | 歯科保健指導総論 | |
| 11 | | | |
| 12 | 前田 恭子 | 症例発表会 | 歯科衛生過程に当てはめた症例発表会を行う |
| 13 | | | |
| 14 | 中原 奈緒美 | 歯科保健指導の要点 | 歯科保健法について総合的に考える |
| 15 | 前田 恭子 | 歯科保健指導の要点 | 歯科保健法について総合的に考える |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅲ | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 30時間(15回) | 単位数 | 1単位 | 履修時期 | 第3学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 | | | | |
| 参考書 | 歯科衛生学シリーズ「歯科材料の知識と取り扱い」「歯科器械の知識と取り扱い」 | | | | |
| 一般目標 | 歯科診療時の歯科衛生士の役割を十分に理解し、臨床の場で必要となる知識・技術・態度を習得する。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|-----|--------|--------------|---------------------------------------|
| 1 | 中原 奈緒美 | コンポジットレジン | コンポジットレジンの取り扱いを熟練する |
| 2 | 前田 恭子 | 概形印象採得 | 患者への配慮をしながら概形印象採得を実施する。 |
| 3 | 前田 恭子 | スタディモデル作製① | 模型台作製を実施する。 |
| 4 | 前田 恭子 | スタディモデル作製② | 模型台作製を実施する。 |
| 5 | 中原 奈緒美 | 暫間被覆冠① | 暫間被覆冠の目的・種類・作製方法を説明する。 |
| 6 | 中原 奈緒美 | 暫間被覆冠② | 歯牙の形態を再現した暫間被覆冠を作製する。 |
| 7 | 中原 奈緒美 | 暫間被覆冠③ | 歯牙の形態を再現した暫間被覆冠を作製する。 |
| 8、9 | 藤村 孝江 | 感染予防対策と滅菌・消毒 | スタンダードプリコーションにおける感染予防対策と消毒・滅菌について熟知する |
| 9 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング実習① | 診療の流れに沿った器材セッティングを実施する。 |
| 10 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング実習② | 診療の流れに沿った器材セッティングを実施する。 |
| 11 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング実習③ | 診療の流れに沿った器材セッティングを実施する。 |
| 12 | 中原 奈緒美 | 器材セッティング実習④ | 診療の流れに沿った器材セッティングを実施する。 |
| 13 | 中原 奈緒美 | アシスタントワーク① | 歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークを実施する。 |
| 14 | 前田 恭子 | アシスタントワーク② | 歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークを実施する。 |
| 15 | 前田 恭子 | アシスタントワーク③ | 歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークを実施する。 |

| | | | | | |
|--------|----------------------|------|--|------|------------|
| 科目名 | 臨床実習 | | | | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 担当講師 | 臨床実習講師(歯科医師)・指導歯科衛生士 | | | | |
| 授業時間 | 540時間 | 単位数 | 12単位 | 履修時期 | 第3学年 前期・後期 |

| | |
|------|--|
| 一般目標 | 歯科診療補助への適した対応と実践への更なる知識・技術の習得に努める。さらにライフステージごとの患者を捉え、病状を把握し、情報の収集・分析・処置・予防管理・継続的指導を行うために必要な臨床手技および知識を習得する。また、地域医療との連携における歯科衛生士の役割ならびに他職種との連携を学び理解する。 |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() |
| 学習評価 | 指導者(歯科医師・歯科衛生士)による実技評価を行う |

| 担当者 | 行動目標 |
|-----|--------------------------------|
| | ① 服装は清潔な印象を与える。 |
| | ② 髪の毛は決められた通りの始末ができる |
| | ③ 患者の人権を尊重し対応する。 |
| | ④ 患者の話を傾聴する。 |
| | ⑤ 報告、連絡、相談を行う。 |
| | ⑥ 指導や助言を受け止め行動に活かす。 |
| | ⑦ 適切な言葉遣いと会話を行う。 |
| | ⑧ 実習施設のルールを守る。 |
| | ⑨ 医療人である自覚を持って行動する。(守秘義務など) |
| | ⑩ 患者や指導者、スタッフに対し感謝と敬意を表す。 |
| | ⑪ 口腔内の状況を記録・説明する。 |
| | ⑫ 実習レポートは内容を適切に記録する。 |
| | ⑬ ライフステージに合わせた歯科保健指導をすることができる。 |
| | ⑭ 法律に基づいた業務記録を学び理解する。 |
| | ⑮ 治療の準備、その治療手順に沿ってアシスト業務ができる。 |
| | ⑯ 歯科材料、薬品を応じて取り扱い、管理する |
| | ⑰ 歯科訪問診療の基本的な流れを理解する。 |
| | ⑱ 在宅医療を通して、他職種の業務を知り、連携を学ぶ。 |
| | ⑲ 目標達成に向けて自己研鑽する。 |
| | ⑳ 提出期限を守る |
| | ㉑ 体調を整え自己管理する。 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--|-----------------|------------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科衛生士業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 60時間(30回) | 単位数 | 2単位 | 履修時期 | 第3学年 前期・後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 随時配布 | | | | |
| 参考書 | 歯科衛生研究の進め方(医歯薬出版株式会社)、プリント他 パソコン | | | | |
| 一般目標 | 歯科衛生士業務または歯科衛生に関わる事象について各自の疑問や興味を持つ事柄において、テーマを選択し、計画立案に基づいて研究を実施し、その結果をまとめることにより、科学的思考や問題解決の能力を養う。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 実技試験 並びに 筆記試験 平常点 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|-----|--------|---------------|---|
| 1 | 前田 恭子 | 卒業研究オリエンテーション | 卒業研究の流れを把握する 研究のデザインをする ①仮説を立てる ②対象の選択を検討する ③研究方法の検討する ④倫理的配慮を行う ⑤予備調査・予備実験を行う意味を述べる ⑥タイムスケジュールを立てる ⑦費用について検討する |
| 2 | 前田 恭子 | 総論 | 卒業研究の意義を述べる クリティカルシンキングの意味を述べる 研究デザインについて概説する 研究方法について概説できる |
| 3 | 前田 恭子 | | |
| 4 | 前田 恭子 | 文献 | 文献とは何か説明する 文献の検索方法を列挙する 文献検索を試みる |
| 5 | 中原 奈緒美 | | |
| 6 | 中原 奈緒美 | テーマの選択 | 研究テーマについて考える テーマの意義について検討する テーマに沿った文献の検索をする |
| 7 | 中原 奈緒美 | | |
| 8、9 | 中原 奈緒美 | テーマの検討 | テーマを決定する |
| 10 | 藤村 孝江 | 研究計画 | 研究計画書を作成する 研究計画書案を提出する |
| 11 | 藤村 孝江 | | |
| 12 | 藤村 孝江 | 研究計画の検討1 | 研究テーマの再検討、研究計画書を検討する |
| 13 | 藤村 孝江 | 研究計画の検討2 | 文献の収集・整理を行う 先行研究及び文献の読解をする |
| 14 | 前田 恭子 | 研究計画の検討3 | 研究計画書の提出 |
| 15 | 前田 恭子 | 研究の実施 | 研究計画に基づいて研究を行う |

| 科目名 | 卒業研究 | | 担当講師 | 前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
|-----|-------|------------|---|-----------------|
| 16 | 前田 恭子 | 研究の実施 | 研究計画に基づいて研究を行う | |
| 17 | 前田 恭子 | 研究の実施 | 研究計画に基づいて研究を行う | |
| 18 | 前田 恭子 | 研究の実施 | 研究計画に基づいて研究を行う | |
| 19 | 前田 恭子 | 研究の実施 | 研究計画に基づいて研究を行う | |
| 20 | 前田 恭子 | 研究の進捗報告 | 研究の進捗状況の発表(パワーポイント) | |
| 21 | 前田 恭子 | 研究データの集計整理 | 研究データの整理分析を行う エクセル使いデータの集計する | |
| 22 | 前田 恭子 | データの解析 | データの解析と統計的分析の必要性を述べる 必要に応じて解析を行う | |
| 23 | 前田 恭子 | 図表の作成 | データから図表作成を行う 適切な図表を選択する ピボットテーブルを利用し図表を作成する | |
| 24 | 前田 恭子 | 論文作成 | 論文の形式を理解する 論文の作成をする | |
| 25 | 前田 恭子 | 発表資料作成 | パワーポイントにてのプレゼンテーションの準備 | |
| 26 | 前田 恭子 | 発表練習 | 研究発表の練習 | |
| 27 | 前田 恭子 | | | |
| 28 | 前田 恭子 | 研究発表会 | 研究成果の発表を行う(グループ毎) | |
| 29 | 前田 恭子 | | | |
| 30 | 前田 恭子 | 反省会 | 評価に基づく反省レポート | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|---|--|-----------|
| 科目名 | 歯科医学総論 | | 担当講師 | 行木隼人、林理、大滝達哉、栗原延好、田中義博、前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 | |
| 実務経験分類 | 実務 | 実務内容 | 歯科医院で歯科医師業務を実践していた教員が、わかりやすく細やかに対応することができる。 | | |
| 授業時間 | 90時間(45回) | 単位数 | 6単位 | 履修時期 | 第3学年 前期後期 |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 教科書 | 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 一般目標 | 専門基礎分野・専門分野の科目を総括的に実施し、歯科衛生士に必要な知識の総復習を行うことにより科目間の関連性に対する理解を深める。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他() | | | | |
| 学習評価 | 中間試験 並びに 定期試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他() | | | | |

| | 担当者 | 講義項目 | 行動目標 |
|-----|--------|--------------------------|-------------------------|
| 1 | 行木 隼人 | 人体の構造と機能① | 人体の構造について学習する。 |
| 2 | 行木 隼人 | 人体の構造と機能② | 人体の機能・構成成分について学習する。 |
| 3 | 林 理 | 歯・口腔の構造と機能 | 歯・口腔の機能、構造、組成について学習する。 |
| 4 | 大滝 達哉 | 疾病の成り立ち及び回復過程の促進① | 病因と病態について学習する。 |
| 5 | 大滝 達哉 | 疾病の成り立ち及び回復過程の促進② | 感染、免疫について学習する。 |
| 6 | 大滝 達哉 | 疾病の成り立ち及び回復過程の促進③ | 薬物動態について学習する。 |
| 7 | 大滝 達哉 | 疾病の成り立ち及び回復過程の促進④ | 薬物動態について学習する。 |
| 8、9 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み① | 口腔清掃法について学習する。 |
| 9 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み② | う蝕・歯周病・その他疾患の予防について学習する |
| 10 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み③ | 歯科疾患の疫学について学習する。 |
| 11 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み④ | 歯科保健統計について学習する。 |
| 12 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み⑤ | 地域歯科保健活動を学習する。 |
| 13 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み⑥ | 環境・社会と健康について学習する。 |
| 14 | 前田 恭子 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み⑦ | 保健・医療・福祉制度について学習する。 |
| 15 | 中原 奈緒美 | 歯科衛生士概論 | 歯科衛生士の業務内容を学習する。 |
| 16 | 栗原 延好 | 臨床歯科医学① | 歯髄の疾患とその治療法について学習する。 |
| 17 | 栗原 延好 | 臨床歯科医学② | 歯周組織の疾患とその治療法について学習する。 |

| 科目名 | 歯科医学総論 | | 担当講師 |
|-----|--------|----------|--|
| | | | 行木隼人、林理、大滝達哉、栗原延好、田中義博、前田恭子、中原奈緒美、藤村孝江 |
| 18 | 田中 義博 | 臨床歯科医学③ | 歯の欠損と治療法について学習する。 |
| 19 | 田中 義博 | 臨床歯科医学④ | 歯の欠損と治療法について学習する。 |
| 20 | 田中 義博 | 臨床歯科医学⑤ | 顎・口腔領域の疾患について学習する。 |
| 21 | 田中 義博 | 臨床歯科医学⑥ | 顎・口腔領域の疾患とその治療法について学習する。 |
| 22 | 中原 奈緒美 | 臨床歯科医学⑦ | 不正咬合の種類について学習する。 |
| 23 | 中原 奈緒美 | 臨床歯科医学⑧ | 不正咬合の治療法・使用装置について学習する。 |
| 24 | 中原 奈緒美 | 臨床歯科医学⑨ | 小児の歯科治療について学習する。 |
| 25 | 中原 奈緒美 | 臨床歯科医学⑩ | 高齢者の歯科治療について学習する。 |
| 26 | 中原 奈緒美 | 臨床歯科医学⑪ | 障害児者の歯科治療について学習する。 |
| 27 | 中原 奈緒美 | 歯科予防処置論① | 歯周病予防処置について学習する。 |
| 28 | 中原 奈緒美 | 歯科予防処置論② | う蝕予防処置について学習する。 |
| 29 | 中原 奈緒美 | 歯科予防処置論③ | う蝕予防処置について学習する。 |
| 30 | 中原 奈緒美 | 歯科保健指導論① | アセスメントについて学習する。 |
| 31 | 藤村 孝江 | 歯科保健指導論② | 口腔衛生管理について学習する。 |
| 32 | 藤村 孝江 | 歯科保健指導論③ | 生活習慣指導について学習する。 |
| 33 | 藤村 孝江 | 歯科保健指導論④ | 食生活指導について学習する。 |
| 34 | 藤村 孝江 | 歯科保健指導論⑤ | 口腔機能管理について学習する。 |
| 35 | 藤村 孝江 | 歯科保健指導論⑥ | 健康教育について説明する。 |
| 36 | 藤村 孝江 | 歯科診療補助論① | 歯科材料の種類・取り扱い・管理について学習する。 |
| 37 | 藤村 孝江 | 歯科診療補助論② | 保存治療時の診療補助を学習する。 |
| 38 | 藤村 孝江 | 歯科診療補助論③ | 補綴治療時の診療補助を学習する。 |
| 39 | 藤村 孝江 | 歯科診療補助論④ | 口腔外科治療時の診療補助を学習する。 |
| 40 | 藤村 孝江 | 歯科診療補助論⑤ | 矯正歯科治療時の診療補助を学習する。 |
| 41 | 前田 恭子 | 歯科診療補助論⑥ | 小児歯科治療時の診療補助を学習する。 |
| 42 | 前田 恭子 | 歯科診療補助論⑦ | 高齢者歯科治療時の診療補助を学習する。 |
| 43 | 前田 恭子 | 歯科診療補助論⑧ | 障害児者歯科治療時の診療補助を学習する。 |
| 44 | 前田 恭子 | 歯科診療補助論⑨ | エックス線写真撮影時の診療補助を学習する。 |
| 45 | 前田 恭子 | 歯科診療補助論⑩ | エックス線写真撮影時の診療補助を学習する。 |